

北経連会報

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION



TOYAMA



ISHIKAWA



FUKUI



No. 210

平成27年4月

C O N T E N T S

No. 210

特集 北陸新幹線 平成27年3月14日 東京－富山－金沢間 開業 会長ごあいさつ、北陸新幹線開業までの歩み、北陸新幹線と北経連	3
トップ対談 富山の自然と匠の技が世界を魅了する 鍔金家・人間国宝 大澤光民氏	8

懇談会など

新春経済懇談会 特別講演：白塚重典氏（日本銀行金沢支店長）	13
平成26年度 会員懇談会 富山会場 講演：奥山清行氏（KEN OKUYAMA DESIGN代表）	19
平成26年度 会員懇談会 福井会場 講演：橘川武郎氏（一橋大学大学院商学研究科教授）	23
第22回 北陸地域懇話会	28
第21回 中部・近畿経済産業局との懇談会	30

委員会活動

第2回 広域観光推進委員会の開催	32
第1回 社会基盤整備委員会の開催	33
第3回 総合対策委員会の開催	34
総合対策委員会女性部会	35

新表紙の説明

北陸新幹線の金沢開業を機に会報の表紙を一新いたしました
まずは北陸3県に新時代をもたらす北陸新幹線
各県を代表する写真もこれからを感じさせるものを選びました

富山県：世界で最も美しい湾クラブ加盟記念モニュメントの建つ海王丸パークと新湊大橋
(写真提供：(公財)伏木富山港・海王丸財団)

石川県：石川県の玄関口JR金沢駅のシンボルである鼓門
(JR金沢駅は、米の大手旅行雑誌「トラベル・レジャー」のウェブ版に
おいて、日本で唯一「世界で最も美しい駅14選」に選出されています)
(写真提供：金沢市)

福井県：「恐竜王国福井」を代表する、世界最大級の規模である福井県立恐竜博物館
(国内最大のスケールで、恐竜に特化した博物館の中では、
世界で3本の指に数えられています)

北経連ダイジェスト

北陸産学連携交流会	36
第327回 常任理事会	38
北陸フォーラムの開催	39
第3回 関西・北陸交流会	42
第3回 あいの風とやま鉄道利用促進協議会	43
福井県並行在来線対策協議会	43
湘南地域と連携した観光プロモーション	44
イノベーション推進事業部だより	48

その他

主要経済指標	50
訃報	51
平成26年度 北経連スケジュール	52
新会員紹介	54
北陸物語 Facebook [出張版]	61
新規会員ご紹介のお願い	62

平成27年3月14日

特集

北陸新幹線 東京-富山-金沢間 開業

ごあいさつ

北陸三県の永年の悲願であった北陸新幹線が、金沢まで開業し、金沢から東京までの約450キロが新幹線で繋がった。国の整備計画決定から42年の歳月を経て新幹線が開業するが、先人の幾多のご苦勞に思いがおよび感慨深いものがある。今後も更なる北陸の活性化に努めたい。

北陸は、安い地価や電気料金、豊富な水資源、少ない自然災害などにより、大都市圏に比して立地競争力が高いことから、北陸新幹線によって、人・企業の流れを大都市圏から北陸へと向かわせ、定住人口増加による地域力の向上を目指したい。

また、経済波及効果の大きい観光産業は、人口減少、少子高齢化における地域活性化の切り札である。交流人口拡大を最大限に活かすべく、北陸が持続的な訪問先となるよう更なる広域観光の推進・強化に取り組んでいきたい。

今回の金沢開業に先立ち、金沢-敦賀間の工期3年前倒しが決まり、併せて福井駅の早期活用等についても検討が行われることとなった。北陸三県の一体的発展のためには誠に喜ばしい。今後も引き続き、一日でも早い大阪までのフル規格での早期全線整備に向け強く要望していきたい。

北陸経済連合会 会長

永原 功



北陸新幹線

- 昭和39年 東海道新幹線開業（東京駅－新大阪駅）
- 昭和40年 金沢市の一日内閣で、砺波商工会議所会頭 岩川毅氏が北回り新幹線の建設を政府に要望
- 昭和42年 日本国有鉄道が全国新幹線網構想を発表
北回り新幹線建設促進同盟会結成
（昭和47年 北陸新幹線促進同盟会に）
名称変更
- 昭和45年 全国新幹線鉄道整備法公布
- 昭和47年 山陽新幹線開業（新大阪駅－岡山駅）
- 昭和48年 北陸新幹線を含む整備新幹線 5 線の整備計画決定及び建設の指示
- 昭和50年 北アルプスを貫通する短距離ルートを検討したが信越本線・北陸本線に沿うルートに決定
山陽新幹線開業（岡山駅－博多駅）
- 昭和55年 自民党三塚交通部長が整備新幹線沿線の16道府県の知事に地元負担案を提示
- 昭和56年 全国新幹線鉄道整備法改正
建設費の地元負担が可能に
- 昭和57年 東北新幹線開業（大宮駅－盛岡駅）
上越新幹線開業（大宮駅－新潟駅）
整備新幹線の建設計画凍結
（国鉄の緊縮財政、オイルショックによる建設費高騰が要因）
- 昭和60年 高崎－小松間の工事実施計画認可申請
- 昭和62年 整備新幹線の建設計画の凍結解除
- 昭和63年 運輸省が建設費削減を目的として暫定整備案を発表
（高崎－軽井沢間のみフル規格、
軽井沢－長野間はミニ新幹線、
糸魚川－魚津間、
高岡－金沢間はスーパー特急方式）
- 平成元年 高崎－軽井沢間が着工
- 平成3年 軽井沢－長野間をフル規格で着工
（長野市でのオリンピック開催（1998年）決定が要因）

金井会長



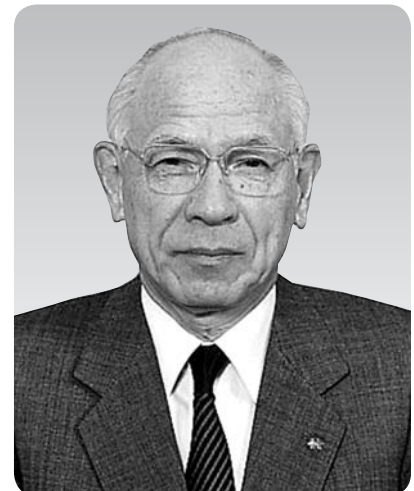
金井会長

原谷会長



原谷会長

森本会長



森本会長

開業までの歩み

- 平成4年 山形新幹線開業
(ミニ新幹線：福島駅－山形駅)
(1999年新庄駅まで延長)
石動－金沢間認可及び着工
(スーパー特急方式)
- 平成5年 糸魚川－魚津間着工
(スーパー特急方式)
- 平成9年 秋田新幹線開業
(ミニ新幹線：盛岡駅－秋田駅)
高崎－長野間が長野行新幹線(後に「長野新幹線」と短縮)の名で開業
- 平成12年 長野－上越間の工事実施計画が認可され、着工(フル規格)
- 平成13年 長野－富山間のフル規格での整備を政府・与党申し合わせ
上越－富山間着工
- 平成14年 東北新幹線開業
(盛岡駅－八戸駅)
- 平成16年 新たな財源スキーム(既設新幹線譲渡収入の前倒し活用)と富山－金沢車輛基地間、福井駅部の着工決定
(政府・与党申し合わせ)
九州新幹線開業
(新八代駅－鹿児島中央駅)
- 平成17年 富山－金沢間(フル規格)
福井駅部着工
- 平成22年 東北新幹線開業(八戸駅－新青森駅)
- 平成23年 九州新幹線開業(博多駅－新八代駅)
- 平成24年 金沢－敦賀間の着工(フル規格)
- 平成25年 北陸新幹線 列車名称決定
「かがやき」「はくたか」
「つるぎ」「あさま」
- 平成26年 北陸新幹線の開業日を発表
- 平成27年 3月14日北陸新幹線金沢開業

森本会長

谷 会長

山田会長

新木会長

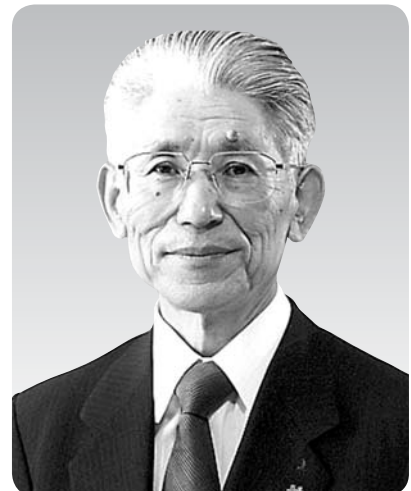
永原会長



谷会長



山田会長



新木会長

北陸新幹線と

要望活動

歴代会長により様々な機会にて北陸新幹線整備を要望してまいりました。



昭和63年3月1日
《整備新幹線関係5経連による陳情記者会見》



平成10年12月22日
《要望活動》



平成17年8月2日 《中央要請》



平成22年8月9日 《中央要請》



平成23年11月17日 《中央要請》



平成26年11月17日 《中央要請》

北 経 連

起 工 式

平成24年8月19日、北陸新幹線金沢・敦賀間建設工事起工式が、JRの小松駅と福井駅で行われ、永原会長が出席し、鍬入の儀において鍬を入れた。ようやく金沢以西に新幹線工事のつち音が響くことになり、平成37年度の開業（当時）を目指すこととなった。

同日、北陸新幹線建設促進石川県民会議総会、および北陸新幹線福井県建設促進県民大会が開催され、永原会長が挨拶した。



JR小松駅での鍬入れの様子

開 業



〈北國新聞提供〉

JR金沢駅コンコースにおいて北陸新幹線出発式が行われ、真鍋JR西日本社長、太田国土交通大臣、馳衆議院議員、谷本石川県知事、山野金沢市長、石川鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事長、永原北経連会長、深山北陸新幹線建設促進石川県



民会議会長（北経連副会長）らが参加した。新幹線ホームではテープカットの後、金沢駅長と女優の土屋太鳳さん（NHK朝ドラ「まれ」ヒロイン）の出発合図のもと、一番列車が出発した。

新 幹 線 金 沢 開 業 お 礼 の 会



北陸新幹線の開業を記念し、都内で「北陸新幹線金沢開業お礼の会」を開催しました。永原会長と新木富士雄前会長、山田圭藏元会長ら歴代役員が参加。半世紀にわたる新幹線整備の要望活動が実ったことを祝い、敦賀までの早期開業と大阪までのフル規格全線整備に全力を挙げることを誓い合いました。

トップ対談

鑄金家・人間国宝(重要無形文化財「鑄金」保持者) 大澤光民氏

富山の自然と匠の技が世界を魅了する



身近にある
雄大な景観が個性に

光と水をテーマに
命や平和の尊さ発信

世界に誇る日本の“用の美”を集めた「日本伝統工芸富山展」が、5月22日から高岡市美術館で開催されます。今年で54回の長い歴史を刻み、多数の作家が活躍する富山の伝統工芸について、高岡銅器に携わり金工分野で人間国宝に輝く大澤光民さんに、当会会長の永原功が聞きました。
(平成27年4月14日)

■ 伝統工芸の地に恥じない高いレベル

永原 人間国宝の賛助出品や地元作家と一般公募の中から入賞、入選した作品を一堂に展示する日本伝統工芸富山展が、今年も間近になってきました。毎年力作がそろい、今年はどうな作品が見られるか楽しみにしながら会場に足を運んでいます。

大澤 永原さんには平成23年から日本工芸会富山支部長をお務めいただき、支部のまとめ役として大変お世話になっています。富山支部は昭和36年、作家会員8人で設立し、現在は金工、漆芸、木竹工、陶芸、染織、人形、諸工芸の全7分野に約60人の会員がいます。

永原 高岡銅器をはじめ数々の伝統工芸が息づく土地だけに、富山展を見にこられる方の目もとても肥えているのではないですか。

大澤 はい。それに負けないよう、期待以上の作品をと会員たちの創作にも力が入ります。全国から秀作が集まる本展でも、富山支部の会

員から受賞作が出るのが珍しくなく、支部のレベルは高いと自負しています。

永原 会員同士が切磋琢磨し、匠の技と美意識を高めていることが、全体の底上げにつながっているのでしょうか。支部を切り盛りする幹事長の大澤さんとは個人的にも親しくしていただき、溢れる情熱にいつも圧倒されています。大澤さんが高岡銅器に携わったのは、まだ10代だったとうかがっています。

■ “不言実行”の父を手本にこつこつと

大澤 実家が専業農家で、私も当然、跡を継ぐつもりでいました。しかし、ひょんなことから高岡の県立職業補導所に入り、そこで銅器づくりを学んだら面白くて抜けられなくなりました。卒業後、銅器製作会社に就職し、私の鑄物人生がスタートしました。

永原 独立されるまで11年間勤められたそうですが、鑄物職人としてどんなものを手がけてい

ましたか。

大澤 床の間に飾る七福神や仏像、滝登りのコイなどの置物が中心でした。月2回の休みも返上し、帰りも毎日、午前0時をまわる忙しさでした。

永原 それは大変でしたね。若くてもさすがに疲れたでしょう。

大澤 いいえ。それよりも納期最優先で量産が求められる、品質が問われなくなったことに空しさが募り、「自分なりの仕事を追求したい」と独立の道を選びました。小さい頃から田んぼを手伝っていたので、仕事の厳しさは全く苦になりませんでした。親父は何事も黙々と実直にやる“不言実行”の典型で、いつも「いらんことを言うな」「人から後ろ指をさされるようなことをするな」「人をだますな。だまされても決してうそをつくな」と教えられました。

永原 今のお話を伺うと、独自の精緻な美の世界をこつこつと築いてこられた大澤さんの来し方と、お父さまの生き方が見事なくらいにシンクロしますね。

大澤 草むしりひとつとっても親父は丁寧でした。草が全然生えてこないんです。こつを聞くと、うれしそうに教えてくれました。後日、校庭の除草作業があった時、親父から学んだ草刈りを先生から褒められたことが忘れられません。「誰にも負けたくない」「人が見ていない時こそ手を抜かない」の信念は、きっと父に仕込まれたものでしょうね。

■美しい豊かな自然が創作のモチーフに

永原 小さなことも疎かにせず、誠心誠意で取り組まれるのが、大澤さんの真骨頂だと思います。ところで、創作の際にモチーフにされてきたものは何ですか。

大澤 やはり自然です。私の場合、命を育む光と水がテーマですが、子供の頃、農作業を手伝いながら見た立山に昇る朝日の神々しさ、家のそばにある庄川のすがすがしい流れなどが、今も記憶に鮮やかに残っています。自然に恵まれた富山に生まれ育ったからこそ、

私の作品があると言っても過言ではありません。

永原 そうでしたか。仰るとおり、立山連峰や急峻な山々から一気に富山湾に流れる河川など、雄大な自然が身近にあることが富山の個性になっています。この富山湾が昨年、世界で38湾しかない「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められました。

大澤 富山湾越しに浮かぶ立山連峰を見れば、どんな人の胸にも自然への畏敬の念が浮かぶことでしょう。富山の宝とも呼べる豊かな自然を、未来まで長く伝えていきたいですね。



高岡市美術館に展示される自作（写真左端）を前に創作のエピソードを語る大澤氏

■国境を越えて心を打つ日本の伝統工芸

永原 ところで、昨年5月、石井富山県知事を名誉団長とする「富山県経済・文化調査団」がアメリカを訪れました。ニューヨークで富山の伝統工芸品のPR展示会も開かれ、大澤さんも現地で作品解説をされました。日本の工芸品に対する反応はいかがでしたか。

大澤 通訳を介してなので、来場者にどこまで伝わるか自信がありませんでした。しかし、光と水のテーマを通して命や平和の尊さを込めているとの説明に、皆さん様にうなずかれ、表情が真剣になるのがわかりました。うれしくて、私まで涙ぐんでしまいました。

永原 作品が放つエネルギーや人類共通の普遍的なメッセージに感動されたのでしょうかね。伝統工芸を時代に合わないと感じる人もいますが、要は工芸技術を生かして何を伝えるかということが明確であれば、世界で受け入れら

れる可能性は大きいと思うのです。

大澤 あの後、展示作品をぜひ購入したいとの申し出がありました。わが子も同然の思い入れの深い作品だけに困り果てましたが、最後はせっかくのご縁かとお譲りしました。聞いた話では、その愛好家は私の作品を手元に少し置いた後、世界3大美術館と言われるニューヨークのメトロポリタン美術館に寄贈されるそうです。



失敗に落ち込まず 次に生かせないか前向きに考えたい

永原 それはすごいですね。世界中からファンが集まる美術館で、一人でも多くの人が大澤さんの作品を通して命の重さを考えたり、心に平穏の火をともしたりするきっかけになれば、素晴らしいことではありませんか。

大澤 心がすさむと美を感じなくなります。そんな人の心をもノックできる作品ができれば、それこそ作家冥利です。そのためには、まず自分自身の殻にこもらず、何事にも好奇心と感動できる心を持つことが大切だと思います。

■挑み続けて革新を生む連続こそ伝統

永原 大澤さんは、高岡銅器の代表的な技法である「焼型^{やきがひたし}鑄造^{ちゆうそう}」と、独自に確立された「鑄ぐるみ法^い」によって、人間国宝に認定されました。いわば伝統と革新を両立されたわけですね。

大澤 日本には長い時間をかけて培ってきた工芸技術があり、それを手の内におさめて初めて一人前の職人になれます。その技だけでは伝承にとどまってしまう。時代に即した感性を作品に吹き込む中で、新しい技法が生まれるのではないのでしょうか。

永原 伝統は伝承にあらず。挑み続けて革新を生む連続こそが伝統というわけですね。挑戦に失敗はつきものですが、大澤さん独自の「鑄ぐるみ法」も、実は失敗から生まれたものでしたよね。

大澤 そうなんです。展示会の出品作の仕上げの段階で、鑄型を固定する鉄筋を抜くのを忘れ、入れたまま着色所に出してしまいました。「変な傷があるよ」と指摘された箇所を見ると、本来なら鑄型から外す鉄筋が着色液と化学反応を起こし、美しい景色になっていたんです。「しまった」よりも、「異質の金属を鑄型に埋め込むことで、面白い模様ができるのでは」と考え直し、試行錯誤の末にたどり着いたのが「鑄ぐるみ法」です。

永原 失敗に落ち込まず、次に生かせないか前向きに考えることが、いかに大切かがわかりますね。失敗を恐れるあまり、新しいことに消極的になってはいけません。

大澤 最近の若手作家にも共通するところがありますね。失敗を放り出さず、原因を突き止めていけば、必ず道が開けるものです。それをせず小成に安んずるようでは進歩はありません。本当にもったいないことです。

■安価で安定した電力が富山の産業を育てた

永原 半世紀以上、銅器と向き合っただけで、制作現場も昔とは随分、様変わりしたのではないですか。

大澤 鑄型の土づくりや焼成、地金の溶解など、作業のほとんどの工程で電気を使います。電気なしには仕事ができないと言ってもいいほどです。昔は天気が荒れるとしばしば停電が起きたもので、その日の予報を見ながら仕事の段取りを考えました。

永原 それはどうしてですか。

大澤 例えば、鋳型を焼いている途中で停電すると、その鋳型はもう使い物にならず、一日の苦勞が泡と消えるからです。独立した昭和44年頃も頻繁に停電があり、「あと何分で電気がつきますか」と慌ててよく電話をしたものです。

永原 そんなお話をうかがっていると、電力の安定供給がいかに重要か骨身にしみみます。

大澤 高岡銅器だけでなく、富山県の産業が今日のように発展できたのは、安価で安定した電力によるところが大きいと感謝しています。

永原 ありがとうございます。ただ、残念ながら日本のエネルギー状況は心細いのが現実です。原子力発電所がすべて停止し、それを補うために老朽化した火力発電所までフル稼働させる綱渡り状態が続いています。燃料として輸入する石油や石炭の急増で、年間3.7兆円もの国富が海外に流出するだけでなく、地球環境を悪化させる温室効果ガスの増加にも、もっと目を向けなければなりません。

大澤 そうですね。私は平和を願って創作をしています。中東やアフリカでの内戦やテロ拡大などで国際情勢は緊迫しています。

■電源のベストミックスに 原子力発電の果たす役割は大きい

永原 特に、日本は原油の約8割、天然ガスの約3割を中東から輸入しています。昨年、策定された国のエネルギー基本計画では、安全性を大前提に、安定供給、経済性、環境保全（3E）の観点から、特定の電源や燃料に依存しない供給体制をつくる重要性が示されており、震災前のように原子力、火力、水力がバランスをとった「電源のベストミックス」を図ることが不可欠です。

大澤 現在、将来の電源構成をどうするか議論が進められていますね。

永原 資源の乏しい日本では、3Eのバランスに優れる原子力の果たす役割は大変大きく、基本計画では「重要なベースロード電源」に位置づけられています。さらには、最高水準の

安全や技術の継承、人材確保の点からも原子力発電は将来にわたって一定程度確保することが必要です。

■街の魅力向上が誘客のカギ

永原 北陸の悲願だった北陸新幹線がついに金沢まで開業しました。観光客の急増で街ににぎわいが生まれ、ビジネス客の増加も目立ちます。日本政策投資銀行の推計によると、経済効果は富山、石川で計212億円に上ります。このほか企業移転や工場誘致などのニュースが相次ぎ、雇用や税収の拡大などにも大きな期待がかかります。この流れを加速させる上でも、やはり街の魅力向上がカギになってきますね。



自分自身の殻にこもらず 好奇心と感動の心を大切に

大澤 高岡市では国の重要有形民俗文化財に指定される御車山みくるやまを展示し、祭りの文化や歴史を発信する「高岡御車山会館」が間もなくオープンします。高岡地域文化財等修理協会の会長として、御車山の車輪修理にも携わりましたが、街の個性に磨きをかけることが一番だと思います。

永原 金工や漆芸、木工など高度な工芸技術を有する高岡が、今回の修理を機に曳山屋台の制作や修理の全国的な拠点になれば、地場産業にも活力を生み出します。それと、一般からも寄付を募って現在制作が進む「平成の御車

山」の完成が楽しみです。

大澤 「平成の御車山」プロジェクトは平成25年度から始まり、5年の歳月と総制作費3億円を予定しています。単に高岡の誇りを具現化するだけでなく、制作を通して伝統工芸の明日を支える人材育成という重要な役割を担っているんです。

■新幹線の関西直結で北陸がさらに元気に

永原 なるほど、街の魅力を高める原点は人材ということですね。大澤さんは、地元の小学生に高岡銅器づくりの現場にふれる工房見学も受け入れていらっしゃるって伺っています。

大澤 工房見学は、平成18年度から高岡市の小中学校で実施される「ものづくり・デザイン科」事業の授業の一環です。銅器や漆器などに代表される「ものづくりの街」として発展してきた高岡市が、その伝統文化・技術の継承と市民意識の向上を目的に始めたもので、伝統工芸産業の組合、高岡工芸高校、富山大学芸術文化学部とも連携した全国的にもユニークな取り組みです。

永原 孫のような小学生に、鋳物の作り方を教えるのは楽しいですか。

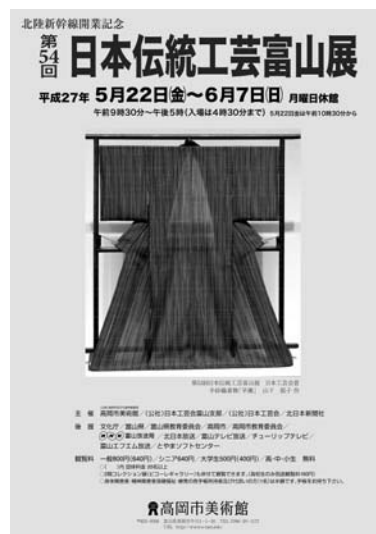
大澤 みな目を輝かせ真剣な表



昨年、開催された「日本伝統工芸富山展」の会場風景

情でメモを取っていますよ。この子たちの中から将来、伝統工芸産業の担い手が育ってくれたら本望です。それと、高岡には銅器生産に必要なあらゆる部門の職人がいます。こんな地域は世界のどこを探してもありません。この輝く個性を磨くためにも、銅器産業に携わる人が通える教育機関の設立が必要なのはと思っています。

永原 年明け早々、北陸新幹線の敦賀延伸が計画より3年前倒しされ、平成34年度に開業との朗報が届きましたが、大阪までのフル規格による早期全線整備の実現まで、引き続き全力で取り組まなければなりません。北陸と関西圏を新幹線で直結することで、北陸をさらに明るく元気な地域に成長させることができます。今後とも3県の連携を一層強化し、要望活動をはじめ、北陸地域のPR強化に努めていきたいと思います。今日はありがとうございました。



今年の「日本伝統工芸富山展」案内
会期：平成27年5月22日～6月7日(月曜休)
会場：高岡市美術館

プロフィール

おおざわ こうみん
鑄金家・人間国宝 **大澤光民氏**

1941年富山県高岡市生まれ、富山県職業補導所銅器科卒。69年大澤美術鑄造所設立、77年通産省「伝統工芸士」認定、83年日本工芸会正会員、84年日本伝統工芸展「日本工芸会奨励賞」、2000年同「高松宮記念賞」、05年重要無形文化財保持者(人間国宝)認定。12年旭日小綬章受章ほか、厚労省「現代の名工」表彰、高岡市民文化賞、高岡市市民功労者表彰など。現在、日本工芸会理事、日本工芸会富山支部幹事長、高岡地域文化財等修理協会会長ほか公職多数

※焼型鑄造

真土(まね)と呼ばれる鋳型土を用いて鋳型を作り、高温で焼いて湿気を取った後、熱で溶けた金属を流し込んで器物を製作する方法。土づくり、地金の配合と沸かし方、型の焼き加減、気泡のない高品質の鋳肌を作るなど、技の習熟が求められる。

※鑄ぐるみ法

鋳型にあらかじめステンレス線、銅線などをステンレス釘で固定し、溶解した金属を注ぎ込む方法。製作中に鋳型の土くずれや銅線が溶け込むことがあり、熟練と勘と高度な技術が必要。象嵌とは違った有機的な温かみが出る点に特徴がある。

新春経済懇談会



平成27年1月27日(火)、金沢ニューグランドホテルで新春経済懇談会を開催し、経済産業省中部経済産業局の井内局長、同 電力・ガス事業北陸支局の関支局長、国土交通省北陸地方整備局の野田局長ら11名の来賓を迎え、会員約130名が出席した。

懇談会に先立ち、北経連の「平成27年度事業活動方針」について記者会見が行われた。永原会長は、「北陸新幹線については、敦賀までの確実な早期開業や、大阪までのフル規格による早期全線整備に向けて取り組んでいく。エネルギー政策については、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働を要望する。また、観光については、首都圏へのPR・誘客活動に引き続き力を入れていく。」などの考えを示した。

懇談会では、日本銀行金沢支店の白塚重典支店長が、「最近の金融経済情勢について」と題して講演した。

新春経済懇談会 永原会長挨拶



〈北陸の状況について〉

事業活動方針の説明の前に二つお話ししたい。

まず、北陸新幹線であるが、金沢開業まであと46日、1カ月半となり、日々、開業への期待が高まっている。また、金沢―敦賀間の開業時期も3年前倒しが決定し、開業が2022年度に早まることとなった。北陸3県の一体的な発展のためには非常に重要な決定であり、大変喜ばしく感じている。

北陸新幹線は北陸地域の成長戦略の基盤であり、優れた経済波及効果と東海道新幹線の代替補完機能を有しており、引き続き、敦賀までの確実な早期開業や、大阪までのフル規格による早期全線整備に向けて取り組んでいく。

次に、エネルギー政策についてであるが、原子力発電所の停止に伴う電力の安定供給への懸念とエネルギーコストの上昇により、国際競争力の低下と産業空洞化が顕在化しつつある。安定かつ低廉な電力ニーズに応えるべく、また、持続的な経済成長を遂げるためにも、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働などのエネルギー政策の実施について、引き続き強く要望していく。

〈平成27年度 事業活動方針〉

当会では、平成23年度から平成27年度の5年間で計画期間とする「第三次中期アクションプラ

ン」を策定している。基本的にはこのプランに沿った取り組みを行っていく。

平成27年度は、第三次中期アクションプランの総仕上げの年であり、これまでの取り組みの総括・評価と社会経済をとりまく環境変化を踏まえ、魅力あふれる地方を創成する観点による活動を強化していく。

「社会インフラ整備」では、地域の成長戦略の基盤である北陸新幹線の整備促進を始め、高規格幹線道路におけるミッシングリンクの解消に引き続き取り組んでいく。

「広域観光の推進」では、北陸地域の活性化のため、首都圏等へのPR・誘客活動に取り組むとともに、北陸三県が一体となった「北陸デステーションキャンペーン」実行委員会に参画し、活動を強化していく。

「産業振興」では、産学官連携によるイノベーションの創出と企業間連携を支援する活動を充実する他、企業誘致に向けた大都市圏でのPR活動を継続していく。

「国際経済交流」では、企業活動の国際化に資する調査研究、情報発信等に引き続き取り組んでいく。

「地域力向上に向けた取り組み」では、最適なエネルギーミックスの策定や、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働を要望していく。

また、少子高齢化、財政悪化等の厳しい状況の中、北陸の「地方創生」に向けた、女性ならびに若者の活躍による地域力の向上等、地域の持続的発展に向けた取り組みを行う。

以上の方針に基づき、会員の声や意見を、国の政策に反映させるための提言・要望活動について、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

今後とも、会員の皆さまからのより一層のご支援、ご協力をお願いします。

新春経済懇談会 特別講演



演題：「最近の金融経済情勢について」

講師：白塚重典氏

(日本銀行金沢支店長)

◆はじめに

本日は、最初に金融環境、経済環境の変化のポイントを整理した上で、量的・質的金融緩和、先行きの景気・物価の見通しについて話をし、最後に新幹線などを含めた、北陸地域活性化の視点について話をする。

◆購買力平価は100円／ドル程度

為替が明日いくらになるのか、1カ月後、1年後にいくらになるのかを予測するのは非常に難しいが、コンセンサスがあるのは、中長期的に購買力平価に戻っていくことだ。購買力平価は、二つの国で同じモノを買ったときに同じ値段になる為替レートである。これを日米で計算すると、最近では概ね1ドル100円程度になる。

その意味では、2012年ごろの80円を切る円高は、相当行き過ぎた円高だったが、それが修正されて、100円前後で推移していた間は、比較的居心地のよいところにいたわけである。それがさらに120円程度まで円安になっているのは、行き過ぎた部分の修正よりも円安ということになる。

ここから先の円安というのは、必ずしもメリットだけではなく、円の対外的な価値の低下という

面から見て、輸入がしにくくなる、海外旅行がしにくくなる、そういったマイナスの部分が強く出てくる可能性がある。

◆日銀の国債買入れがさらに増加

長期金利が下がっているのは、日銀がたくさん国債をマーケットから購入しているからである。国債は、毎月10兆円程度発行されている。量的・質的緩和を始めた頃、日銀は毎月7兆円くらい市場から購入していたが、今はもう10兆円近く購入している。つまり、新規に発行される金額を、毎月毎月買い続けているわけで、これにより、需要と供給のバランスが非常にタイトになっている。

先行き、景気が着実に回復して、デフレから脱却し、物価上昇率が2%前後で安定する状況に至るのであれば、最近の0.2%という長期金利は、確実にマイナスの実質金利になる。このため、この水準が長い目で見て維持されるとは考えづらい。先行きの長期金利の動きは、日銀が今たくさん購入しているという需給要因と、経済ファンダメンタルズ要因の綱引きということになる。

◆原油の需給が緩和

ここ数年、ドバイの原油は1バレル100ドルくらいであったが、去年の後半から急激に下落し、最近では50ドルを割り込んでいる。この原油価格の下落については、減税と同じような効果がある。そういう意味で、物価上昇に対してはマイナスであるが、景気に対しては非常にプラスになる。

原油価格の下落には、いろいろな要因があるが、供給サイドの要因だけではなく、世界経済の回復が芳しくなく需要面の弱さが大きいのであれば、原油価格の下落は、日本経済にとってまるまるプラスというわけではない。

◆世界経済の回復は遅れ気味

IMFが今月出した世界経済の見通しを見ると、しばらく前までは、2013年がボトムで、14年から回復と言っていたのが、13年、14年は横ばいで、

15年から緩やかに回復、しかも15年、16年の見通しもだいぶ下方修正されている。特に新興国・途上国の成長率が、今年にかけてまで芳しくなく、リバウンドするのは来年以降になるということである。この世界経済の動向は、先行きを見る上でも重要なポイントとなる。

◆消費者物価上昇率は下振れ

日本の物価上昇率は、去年の春くらいがピークで、1%半ばくらいまで上がったが、原油価格下落などの影響から、現在は1%を切るところまで下がっている。消費者物価指数のなかでも、生鮮食品を除く総合指数は、もうしばらく伸び率を低下させる可能性が高い。

◆日本の成長率の回復に遅れ

成長率は、去年の1-3月期に、消費税増税の駆け込み需要により大きくプラス成長したあと、4-6月期、7-9月期と、2期連続でマイナス成長になった。民間需要が全般に不振で、消費回復も少し遅めで、設備投資も予想以上に悪かった。

ただし、これについては、在庫投資がマイナスだった寄与が大きいという点を多少割り引いてみておいた方がよい。マイナスの在庫投資は、在庫が減し、在庫調整が進捗しているということであり、先行きの成長率についてはプラス材料である。

◆消費税率引上げ後の反動減は大きめ

しかし、消費税率引き上げの影響については、駆け込みも大きかったし、その後の反動減も大きかったというのは確かだ。食料品など、長期保存が出来ず、駆け込みの少ない非耐久消費財、あるいは性格上在庫ができないサービスなどの消費が今一つ冴えない。最近の消費者行動の特徴の一つにメリハリ消費があるが、特に、財布の紐を引き締める方向が顕著で、消費税率引き上げに対する家計の防衛意識は強い。

◆量的・質的金融緩和の導入と拡大

一昨年(2014年)の4月から、2%の物価上昇率を、2年

程度の期間を念頭に、できるだけ早期に実現するというので、量的・質的金融緩和を行っている。この政策では、国債はもちろん、ETFやJ-REITといった、リスクが大きく今まであまりたくさん買っていなかったものも購入額を増やし、日本銀行が供給するお金を、2年間で倍増させることを目標にしてきた。さらに昨年10月には、追加的な緩和ということで、買い入れペースをさらに引き上げている。

◆通貨供給量対GDP比が2割から6割へと極めて大規模な緩和が進行中

日本の場合、すでに1990年代の終わりから短期金利がゼロで、大規模な金融緩和を続けている。この結果、日本銀行のお金の供給量に概ね相当するバランスシートの大きさを名目GDPとの比較で見ると、リーマン・ショックの時点ですでに2割を超える高い水準にあった。アメリカは、リーマン・ショック後に大規模な量的緩和を開始したが、それでも現状2割ちょっとである。日本では、量的・質的緩和により、日銀のバランスシートが著しく拡大し、開始直後は3割程度だったものが、今は6割を越えるところまできており、欧米と比べても、極めて大規模な緩和が進んでいる。

◆デフレ脱却とは

デフレの定義は、継続的に物価上昇率がマイナスであるということであるが、デフレからの脱却は、単に物価上昇率が継続的にプラスになればよいということではない。物価だけ上がって、企業の売上や利益が増えなければ、労働者の雇用や賃金も増えないので、経済にプラスとは言えない。企業の売上や利益が増え、労働者の雇用や賃金も増え、経済がバランスよく成長していき、その結果、物価も上がっていくという状況をつくるのが大事である。

◆持続的なデフレの問題

デフレをヒトの体にたとえると、血の巡りが悪

く、恒常的に低体温の状態といえる。1990年代終わりから物価上昇率のマイナスが続いている日本のデフレは、恒常的な低体温症ということになる。

デフレが続けば、今日よりも明日、1カ月先の方が、モノやサービスの値段は下がる。そうであれば、今日どうしても必要でなければ、取りあえず今日は大きな支出はやめようということになる。このため、需要がなかなか増えず、景気の停滞が続き、結果としてデフレが続くことになる。

物価が下がる時に支出を先送りするのは、非常に合理的な行動であるが、それらが集積した場合、経済全体で見ると、悪い方向に進んでしまう。これは合成の誤謬の典型的な例であり、これの背後にある、デフレ期待を抜本的に転換させることが、この量的・質的金融緩和で強調されてきた部分である。

◆アベノミクスでの取組み

アベノミクスでは、金融政策、財政政策、成長戦略という、三つの政策で頑張ろうということ、「アベノミクスの三本の矢」といわれている。

金融政策、財政政策というのは、短期的に需要を引き出すカンフル注射的なものである。恒常的な低体温症を解決するには、カンフル注射を打って活動を活発にするだけではなく、できるだけ長くもう少し高い体温を維持するために、基礎代謝をあげるなどの体質改善も大事である。そういう意味で、経済の成長力にはたらきかける成長戦略も大事である。

また、長い目で見たときにもう一つ大事なものは、財政規律の信認をきちんと確保していくことである。今は長期金利が非常に低い水準にあり、政府に対するマーケットからの信認は非常に厚い。ただ、今大丈夫だから未来永劫そうした状況が続くことが保証されている訳ではない。

◆財政を巡る環境は厳しさを増す

これからは人口がどんどん減っていく。特に生

産年齢人口の減り方は著しく、逆に65歳以上人口は増えていくので、財政のバランスでは、歳出が増えて歳入が減る方向にプレッシャーがかかる、つまり非常に厳しさを増す。

そうしたなかで、日本政府のグロスの債務はGDPの2倍を超える水準にある。日本政府が持っている金融資産を差し引いたネットで見ても、1.5倍ほどある。先行き、財政規律をどうやって維持していくのが、経済政策の運営を考える上でも非常に重要なことだと言える。

◆財政バランス悪化の原因

財政赤字が増悪している要因として、バブルの崩壊直後に公共投資が増えたことや、税収が減ったことがある。また、その背後で、この20年くらいずっと進んでいるのは、社会保障費の膨脹である。この先、人口が減少していくなかで、年金だけではなく、医療費を含めた社会保障費をどうコントロールしていくのが重要である。

◆2015年度入り後のデフレ脱却を展望

日本銀行が今年1月に出した、先行きの成長率、物価上昇率の見通しでは、10月時点の見通しと比べ、1月時点では▲0.5と、1.0%ポイントの大幅な下方修正をした。ただ、2015年度はそのぶんプラスになるし、原油価格低下のプラス効果もでてくる。また、16年度も若干上方修正している。

一つ注意しなければならないのは、16年度の上方修正されている成長率の一部には、消費税率引き上げが今年の10月から17年の4月に先送りされた分の駆け込み需要が含まれていることだ。次は2%増なので、今回ほど大きな駆け込み需要はないかもしれないが、その部分を割り引かなければならない。

物価上昇率は、足元で相当大きく下振れているが、成長率の回復に連れ経済全体の需要と供給のバランスが改善し、「2年」の期限である15年度のはじめよりは後ずれするが、15年度の後半の方

では、デフレ脱却が展望できるようになっていくと想定している。

◆企業収益は高水準

足元のデータを見ると、企業収益はそれなりに回復してきている。製造業・非製造業ともに、企業規模が小さくなるに連れ売上高利益率の水準は低下するが、企業規模を問わず、製造業ではリーマン・ショック前のピークに近い水準まで、非製造業もリーマン・ショック前の水準を超えるところまできている。

◆賃金は継続的に上昇するか

企業収益が賃金・雇用の増加というかたちで家計にどれだけ還元されていくかは、人々の将来所得の期待を引き上げ、消費支出の増加につながる。

現状では、利益が増えた分は、賞与で還元するところがまだ多いというのがデータに現れている。継続的に所得が増加するかという点では、基本給が引き上げられるかがポイントであり、ベアについて、昨年に続き今年も注目したい。

◆潜在成長率は高まるか

ただ、企業も業績の改善が先行きも続くことにある程度確信がもてなければ、ベアにはなかなか踏み切れない。実際、潜在成長率は、リーマン・ショックの後、一貫して低下してきた。主因は設備投資の先送りによる資本ストックの減少にある。

しかし最近の設備投資計画を見ていると、徐々に回復の方向に進んでいる。設備投資がプラスに効いてくれば、労働力の活用なども進み、日本の潜在成長率も高まっていくと考えられる。

◆人口減少は停滞を意味するか

人口減少は良くないというイメージは非常に強い。それは、経済の発展というのは、人口が増えているときが多かったからと思われる。例えば弥生時代には人口が非常に増えたが、これは農耕が発展した時期であり、同様に、戦国時代が終わっ

た江戸初期も人口がかなり増えた。明治維新のあと、産業革命の進展を契機として、最近までは、非常に大きな経済発展と人口増加があった。

一方、例えば江戸時代の中期から後期にかけては、人口は停滞し、若干減っている時期もあった。この時期の日本経済は停滞していたイメージがある。けれども、実態としては必ずしもそうではない。この時期は、大都市の人口再生産能力が低く、農村から都市への人口流入が江戸や大阪の人口を支えていた。逆に、地方では、各藩で産業振興が進み、伝統工芸品の多くがこの時期に生まれている。地方経済は必ずしも停滞していた訳ではない。

人口減少をあまり後ろ向きに捉えずに、地方と都市部のヒト、モノ、カネの配分を見直すよい機会であると考えて、そのための方策を考えていくことが大事である。

◆北陸新幹線開業

北陸では、新幹線の開業がその一つの契機になる。新幹線は取りあえず金沢までの開業だが、これにより東京と北陸の間の時間的距離が飛躍的に短縮される。ただ、開業効果を考える上では、北陸、首都圏、関西の「三角形の周遊性」向上に注目すべきである。北陸はすでに名古屋や大阪とは2時間半から3時間くらいで行ける距離にあるので、北陸、首都圏、関西の三角形の各辺がほぼ同じ時間で移動できることになる。この三角形の周遊性を活かす方向に、これから積極的に進んでいくことが北陸にとって大事である。

◆地域活性化の視点

そのためにも、北陸の魅力を高めていくことが重要である。北陸のいいところ、良い伝統を継承し、それをうまく活かしていくために、新陳代謝も図っていくことが大事である。そのために、何を残して、どういうふうにしていくのかという選択と集中の視点と、そこに向けて将来を見据えた投資を継続的に行っていくことが大事である。

平成26年度 会員懇談会 (富山会場)



平成26年12月10日(水)、富山第一ホテルにて平成26年度 会員懇談会(富山会場)を開催し、会員約100名が出席した。

懇談会では、永原会長の挨拶の後、「北陸新幹線金沢開業後の広域観光戦略」「地方創生に向けた北陸の取組」の二つをテーマに自由懇談を実施し、観光では「若い世代の女性の目を引くものを」、地方創生では「地域を支えている地場企業の活動を盛り上げていく姿勢が肝要である。」など活発な意見交換を行った。

続いて、国内外で活躍する工業デザイナーでKEN OKUYAMA DESIGN代表の奥山清行氏が「これからの100年をデザインする」と題して講演した。



永原会長(左)、高木副会長(右)

会員懇談会(富山会場) 講演概要



演題：「これからの100年を
デザインする」

講師：奥山清行氏
(工業デザイナー
KEN OKUYAMA DESIGN代表)

■はじめに

今まで世界中で30年ほど仕事をしてまいりました、そのなかで学んだこと。日本がこれからどこに向かうのかを、ものづくりの観点から、あるいはまちづくりの観点から、それが非常に成功されている富山の皆さんと一緒に深掘りしたい。日本のまちづくりの未来を絡めて、これからの日本はどこに行くのかという話をさせていただく。

■今までのまちづくり

これからの100年の話をする前に、今までの2000年を振り返ってみると、はじめの1800年の暮らしぶりが、いきなり最近の200年、特にこの150年間で大幅に変わった。

明治時代の頭くらいまでは、城下町のごく一部のまち以外は、ほとんど港と川のそばにあった。ものを運ぶことが、人間の暮らしの上で非常に重要な役割を占めていたので、鉄道もエネルギーもなかった時代の人類の暮らしは、水のそばで営まれていた。

その頃は98%の人たちが、家で仕事をし、近所で一つのコミュニティを形成し、家のなかで子どもの教育をし、共同で仕事をしていた。

産業革命が起こり、蒸気エネルギー、印刷、鉄道ができて情報を伝達するスピードが変わると、ビジネススケールが圧倒的に大きくなり、同じ志を持つ人たちが集まって、会社という組織をつくった。日本では明治維新の頃、大きな変化があり、外に出るようになり、今は75%くらいの方が、外で仕事をしているといわれている。

今まで河川を中心にできていたまちが、鉄道が通り、駅の周りにまちができた。

その後自動車という機械が発明され、大量に、高速に、人とものを運べるようになったことで、人の暮らしがさらに変わった。出発点から目的地まで、ピンポイントで運べるという意味では、自動車はこれまでになく、とてつもなく強力な道具として発達した。

ところがそれは、まちを破壊した。

自動車だと出発点から目的地までピンポイントで行けるので、途中の通過点がなくなる。結果まちの中心にあった商店街がなくなった。

自動車通勤、通学をするようになり、ドーナツ化現象が起こった。

また、郊外にベッドタウンをつくり自動車移動していた人たちが運転できない年齢になると、車に頼っていたために、バスもない、路面電車もない、何も他の移動手段がなかったというのが、日本だけでなく、世界中で起こっている現象。

今後の超高齢化時代に向けて、まちの中心地への回帰現象は、すでに20年前から起こっており、今後はもっと加速する。

産業革命がもう一度やってきて、今はその真っ最中である。重要な要素は三つあり、エネルギー、情報の伝達技術、そして交通機関である。この三つが変わると、人間の暮らしぶりが根本から変わる。

これからは、ものとサービスが人に向かってくる時代に徐々になっていく。今までは、仕事や商品、あるいはサービスのために人が動く時代だったのが、徐々に変わってくる。

エネルギー効率も、時間の使い方もよくなって、人の暮らしぶり、仕事の仕方が劇的に変わる、そういった時代に、僕ら、皆さんは生きている。

■北陸新幹線と今後

北陸新幹線のプレゼンテーションで「和の未来」を、テーマとして掲げた。

日本というのは、伝統と現代を分けるきらいがある。ヨーロッパは、過去の延長のなかに現代があり、現代の延長に未来があるという認識。日本は二度の大戦、江戸時代から明治時代に移るその都度、文化が途絶えている。

そこで、日本で今、最も重要なことは何かを命題とした。それは、和がずっと過去から続いていて、現代があって、未来の和もずっとあり、過去からいきなり未来に行くのではなく、現代の延長に和があるということで、「和の未来」とした。

北陸の共通項を、いろいろと考えた。例えば金属産業は、北陸は日本が世界に誇る地域。北陸がなければ、世界中の金属産業は成立しない。

和の本質というのは、実は相反する要素を融合させることなのだが、現代の技術と、伝統工芸の両面から見ていくと、この北陸で、非常に昔から行われている。

日本の文化というのは、ハレとケがあり、陰と陽があり、剛と柔がある。くつろぎであるとかプライベートであるとか、新しさがありながら伝統がある。これらを両立しているのが和である。これだけ相反する要素が一つの伝統のなかできれいに融合している文化というのは、世界中の文化のなかでも「和」しかなく、それが和の文化というものだけをこれだけダイナミックにしている理由であ

る。異質なものを融合して、高め合う、それが和の文化、和の未来である。

新幹線がこれから北陸にやってくることで、いかにして経済効果を出していくかが、命題だと思う。

クルーズトレインやSL銀河など、今まで、手段だった鉄道が、目的になると数万人、数十万人の集客効果がある。

山手線の新型車両では中吊り広告をなくした。中に設置したLEDスクリーンで多彩な広告内容を、動画やアニメーションで乗客に楽しんでいただく。違う考え方によって、業界を変えることができる。鉄道を、いかにして集客力、観光資源として使っていくか、それはアイデア次第だと思う。

■これからのまちづくり

東日本大震災が起こった際に高台移転しようにも、そこに高台自体がないということに気付いた。

そのなかでコンパクトシティ、コンパクトなまちづくりを目指そうと思った。半径500m、最大で2kmのなかで、歩いて暮らせるまちづくりができないかと考えついた。

森富山市長も同じ話をしていたが、500mというのは非常に鍵であり、老人であっても歩ける距離、半径が500mくらいのところに、一つの文化圏、コミュニティができる。

被災地に、人工地盤を作り20m持ち上げ、そのなかに500mから2kmのコンパクトなまちをつくり、この中で仕事あるいは学校に行けるようにし、居住地もつくる。そういったまちづくりができないかと検討を進めている。

デトロイトとシカゴは、どちらも同じように湖のそばにできたまちだが、シカゴは潤い、デトロイトはゴーストタウン化した。違いは、デトロイトはまちのダウンタウン地区に職場しかつくらな

かった。日中は外で暮らし、仕事だけ中であるようになると、夜は死んだまちになる。一方のシカゴやニューヨークというのは、住居があると同時に、商業施設や職場があり24時間生きているまちだといわれる。それが非常に重要な意味合いを持つ。

まちづくりについて、これまでできなかったことがある。避難塔である。これもやはり500mが鍵になる。東日本大震災では、地震が来てから津波が来るまで15分あった。その15分で、人が手を引いて、老人が子どもを背負って歩ける距離は500m。1 kmごとに数百人が登れる避難塔をつくれば、多くの命が助かったであろうといえる。

問題は三つ。高価であると避難塔を建てるだけの莫大な国家予算が必要となる。それからこれは百年に1回しかできれば使いたくないもの。普段は見ているだけのものなので醜いものは嫌だと思ふ。

今後技術的に確立されて、百年もつ、美しい、安い避難塔を建てるためのプラットフォームをつくりたい。

■まとめ

今日のポイントとしては、北陸新幹線、それからまちづくりを一つのきっかけとして、未来はどこに行くのか、自分たちで何をやらなければいけないかについて、提案した。

今日、皆さんにお伝えなかったポイントは、世界が猛スピードで変わっている、そういう時代に、僕らは好む、好まざるに関わらず生きている。仕事とか人の暮らしがこれからどんどん変わっていくなかで、これからも自分なりのビジョンを持って、未来を見据えていきたいと、自分に対する戒めも含めて、今日はお話しさせていただいた。



平成26年度 会員懇談会 (福井会場)



平成27年2月19日(木)、ホテルフジタ福井で、平成26年度 会員懇談会(福井会場)を開催し、会員約70名が出席した。

懇談会では、永原会長の挨拶の後、「地方創生に向けた北陸の取り組みについて」および「北陸のこれからの広域観光戦略について」の2つのテーマについて活発な懇談が行われた。

続いて、一橋大学大学院商学研究科教授の橘川武郎氏が「エネルギー政策と北陸経済」と題して講演した。



会員懇談会(福井会場) 講演概要



演題：「エネルギー政策と北陸経済」

講師：橋川 武郎氏

(一橋大学大学院商学研究科教授)

■はじめに

私は北陸経済の専門家とは言えないのですが、実は長いご縁がありまして、北陸電力の社史を2度にわたって書かせていただきました。前世紀の終わり頃から、主として富山に参っておりました。

そのあと、西川知事発案の希望学に参加しまして、その調査で福井県にしょっちゅう来るようになりました。私はエネルギーをやっているもので、嶺南地方を中心に調査をさせていただきました。

そうこうしているうちに3.11がありまして、そのあとは福井県の敦賀にLNGの基地をつくるということで、セーレンの川田さんの下で、今でも働かせていただいております。そういう意味で、最近では福井県を中心に来させていただいております。

来るたびに、やはり北陸は日本で一番豊かだなということ、毎回、夏に来て、冬に来て、実感いたします。

エネルギーの前途は多難です。端的に言うと、政府がはっきりしていないというところが非常にあると思いますので、今日はそういう話をさせて

いただきたいと思います。

■日本経済への脅威=エネルギー問題

アベノミクスにとって、エネルギー問題は、喉に刺さったとげみたいなところがあります。財政出動と金融緩和はうまくいったといわれていますが、これはお上がやればすむことです。第3の矢の成長戦略はやっぱり、民間が動かないかぎり出来ません。トヨタのお膝元の愛知県東部を除いて、私が行ったまちでは、「このまちにはアベノミクスは来ていません」といわれる。

アベノミクスといえば円安なわけですが、円安はメリットがたくさんありますけど、一番大きなデメリットは、どうしても輸入しなければいけないものに対して払うお金が増えてしまうということです。普通のものは、輸入品が高くなったら国産品に置き換えればいいわけですが、置き換えが利かないものがある。その典型的なものが、原発が止まったことによって生じた火力発電のための燃料、LNG、石炭、石油に対して支払うお金になります。

それが2010年と13年を比べると、3.6兆円増えてしまった。

3.6兆円増えたと言ったのですが、ちゃんと精査しておく必要があります。2010年に火力発電所用燃料に対して日本が払っていた輸入額は3.6兆円でした。それがほぼ倍になって、7.2兆円になったから、3.6兆円増えた、こういう構造です。つまり輸入額は100%増えているわけですね。

そのときに、火力発電所用の燃料の分量はどれだけ増えたかを考えます。30%だった原発が0%になることによって、火力が60%から90%に増えたわけですね。ということは、60から90ですから、火力発電所用の燃料の分量は50%増えているわけです。分量が50%増えたのに対して、支払うお金が100%増えたということは、誤差がやっぱり50%もあるわけです。これが円安と燃料費の値

上げなのです。

■再稼働だけでは問題は解決しない

原発を再稼働させなきゃいけないことは間違いないけれども、それだけで解決ではなくて、円安は全体のために必要だということで置いておくとしても、燃料費を下げるための努力をしなければいけない。ここを見落としちゃいけないと思うんですね。

燃料費を下げるにはどうしたらいいか。二つしかないと思います。一番安い石炭をたくさん使うことと、天然ガスをうまく買うことです。

原発の再稼働とともに、石炭をうまく使うことと、天然ガスをうまく買うこと、この三つのセットでいかに限りエネルギー問題は解決しないと思います。

■減り始める再稼働

その原発です。ここはやっぱり、リアルに、厳しく見ておいたほうがいいと思います。

40年廃炉基準に科学的根拠がないかもしれないけれども、定着していく可能性があるのではないかと思います。いったん定着したものを変えるというのは、結構大変じゃないかと私は思います。

もし、その40年廃炉基準が厳格に適用された場合、どうなるかといいますと、志賀原発は両方残りますけれども、2030年の末で、今ある48基のうち30基が廃炉になり、18基だけが40歳未満ということになるわけですね。これに建設中の島根3号機と大間のプラス2で20基。これが70%の稼働率で動いたとすると、2030年の原発依存度は15%くらいの数字になるのではないかと。

■原子力発電の将来

そういう再稼働の状況のなかで、原子力発電の将来をどのように考えるべきか。私は二つのことを考えています。

一つは、3.11があったからといって、原子力という選択肢を捨てるべきではない。これがまず第1点であります。

もう一つは、長期的にみれば、原子力は過渡的なエネルギーにとどまるのではないかという点です。

福島第一原発事故のあとに、私はやっぱり、ある程度減らすということを明確に言ったほうが、再稼働できるのではないかという判断をしました。私の意見が、いわばミックスでの議論の一番低い数字くらいになるような状況に持っていきたいなど、そのように思って、ずっと話してきました。ある意味では、そういう流れになっています。

ただし、残念ながらもう一つの考え方があって、私は石油ショックのあと、人類を救ったという意味で、原発を高く評価します。しかし、どうしても今世紀半ばくらいまでのエネルギーなのではないかと。ここが意見の分かれるところかと思っています。その最大の理由は、使用済み核燃料の処理問題、バックエンド問題の解決が難しいと考えるからです。

■使用済み核燃料の処理問題

私は理科系ではないので、地層処分すれば安心だという、推進派の方が言われる議論に対して反対する知恵はありません。合っているのかもしれませんが、ただそれが、もし安全だったとしても、二つの大きな問題があります。私に分かる社会科学の範囲であります。

一つは捨て場所の問題です。これが見つかるかという話です。新しいエネルギー基本計画で、国が前面に出ればいいと書いてありますが、国なんかが前面に出たところで決まるはずがないと私は思います。

もう一つは情報伝達の問題です。今、ワンスルーでそのまま捨てますと、万年単位で危ないと

いわれています。地層は確かに安定しているかもしれませんが。しかし地上は大丈夫なのかと考えると、1万年前の日本列島のことをなかなか想像できないわけでありまして、何百世代、何千世代にわたる情報伝達を、ちゃんとやりきれぬのかどうか。この二つの点が、バックエンド問題で心配な点であります。

ですから、よく私は、リアルでポジティブな原発のたたみ方と言って、それが反原発ではと思われる最大の理由なのですが、バックエンド問題が解決しないならば、たたみ方を考えなければいけないということで、私はどちらかというと、理科系の人に球を投げているつもりなのです。ぜひ解決してください。

■火力シフトと廃炉ビジネス

もし原発をたたむとすると、こういう出口戦略になるのではないのでしょうか。三つあります。

一つは火力シフトです。原子力発電所というのは、発電設備が危ない。でも送電設備と変電設備は立派ですから、発電設備をLNGなり最新鋭石炭火力に変えていく。これは時間がかかりますが、変えていけば、永久に発電地域として活躍できます。

ただこれは、嶺南で話しますと、すぐ怒られます。「それでは雇用が減っちゃうじゃないか」。まったくそのとおりなのですが、ちょっと待ってください。火力シフトということは、裏側で廃炉ビジネスが生じます。これはかなり長期にわたって雇用が確保されていくと思います。

今、日本に48基、アメリカに103基、ヨーロッパに130基、世界に430基の原発があります。歴史上、原発は580基登場したといわれています。純減で、すでに150基減っているわけです。

これから世界で原子力依存度が上がってきますけれども、それはリニューアルが進んでいくので、廃炉はかなり続いていきます。

そうすると、21世紀前半の原発ワールドで一番の成長ビジネスは廃炉ビジネスなのです。今の日本で一番の成長ビジネスが葬儀屋さんであるのと同じです。これは決して後ろ向きな話ではなくて、非常に重要な話で、やはり最後まで面倒を見るということ。私は日本の原子力技術というのは、そこそこ大事だと思うのですけれども、廃炉に誇りを持って、最後まで面倒を見ますと言うと、外国から作ってくださいという注文がくるのだらうと思います。

福井県が廃炉に焦点を合わせた組織をつくったというのも、非常に面白い着眼点だなと思います。

■オンサイト中間貯蔵

3番目が西川知事と唯一意見が違うところなのですが、使用済み核燃料の処理問題は、ポジティブな対案を言わないと意味がないのです。私が今一番大事だと思っているのは、根本的な解決ではありませんが、オンサイトの中間貯蔵です。オンサイトというのは原子力発電所のなかという意味です。

筋論から言ったら、西川知事が言われるように、消費地につくるべきなのです。大阪につくるべきです、東京につくるべきなのです。でも私から言わせると、時間がかかって駄目なのです。そこで、東京や大阪に二者択一を迫るべきだと思います。自分のところで使用済み核燃料の中間貯蔵を受け入れるのか、もしノーならば、ちゃんと保管料を払うのか。こういう二択を迫るべきです。

私は消費地が保管料を払って、オンサイトで中間貯蔵をやるという解が一番現実的なのではないかと思っています。

そうしますとまず、原発の立地地域からいくと、火力シフトと廃炉ビジネスと、かなりの額になる保管料。この三つで私は、ソフトランディングできると思います。

そのときに、もう一つ重要なことがありまして、この中間貯蔵をやりますと、もう確立した技術ですから、最低50年の時間は稼げるわけです。アメリカもフランスも、今、この方向に向かっていていると思います。そのあいだに最終処分の技術を詰めていくことが重要なのです。

■最終処分問題

そこでもんじゅが生きてくるわけです。高速で減容していくと。

私は理科系ではないので、だいたいこの手の話になると、山地先生に聞くことが多いのですが、私はなんとか最後、地上処分できないんですかと聞いたら、「それは無理だ。だけど、1万年もの危ない期間を何百年の単位に持っていくことは可能かもしれない」と言われました。そこに期待します。何百年になると、全然、捨て方が変わってくるわけですね。

ですから、たたみ方と言っていますけれども、このオンサイト中間貯蔵ができれば、最終処分について、将来世代に対する負担も変わって、ずっと原発を使い続けることになるかもしれません。

■北陸経済と電気事業

何度も何度も、北陸の電気事業は消えかけました。最初は、昭和のはじめのころの電力戦という戦いです。なぜ黒部川第四ダムがあるのか。それが関電のものなのか。「第四」ということは第一、第二、第三があったわけです。それらをつくったのは日本電力という会社で、今、黒部溪谷に「日電歩道」という登山道がありますけれども、あれをつくった会社です。

大阪の資本が入ってきて、庄川もそうですが、北陸の川を開発していきました。それが大阪に送電線がつながっていく。そのときに、北陸の電気事業者は、全部、関西の会社に飲み込まれそうになりました。そのときに、地元の電力会社が立ち

上がって、戦って、砦を守ったのです。

次は国家管理のときです。このときの最初の分割案は、最終的な9配電とは異なり、8分割案でした。北陸は関西と一緒にするという案でした。このときも地元が戦いました。電力再編成のときでさえそうなのです。このときは7分割案が有力でした。このように、北陸では、常に勝負どころで地元の人たちが頑張ってきたのです。

その結果、何が起きたか。戦後一貫して、ここが一番、電気料金が安い。

北陸が豊かであるということには、いろいろな理由があります。例えば福井には三世帯家庭が多いとか、いろいろな理由がありますが、そのなかの明らかな一つの理由として、安い電気といいですか、需要家と電気事業のつながりが深かった。全国のなかで、明らかにここが一番深い。これが宝なのです。発送電分離なんかで、これが壊れたらいけないと私は思います。

以上で私のお話を終わらせていただきます。

第22回 北陸地域懇話会



平成27年2月24日(火)、富山市の富山第一ホテルで、第22回 北陸地域懇話会を開催した。国土交通省からは、野田北陸地方整備局長、徳永北陸信越運輸局長をはじめ19名、北陸経済連合会からは永原会長をはじめ36名が出席した。

国土交通省から、北陸の地域づくり、近畿の地域づくり、北陸の運輸・観光の取り組み状況について報告を行った。

北経連からは、山崎常任理事から「社会インフラ整備について」、桑名常任理事から「広域観光推進について」の活動報告があり、その後、自由懇談を行った。



永原会長



山崎常任理事



桑名常任理事

会員からの主な意見

- 北陸3県の願いは、北陸新幹線の敦賀までの確実な早期開業と、一日も早い大阪へのフル規格での全線整備の実施である。
- 地方創生への取り組みを進めるためにも、地方に魅力のある働き場所を移すことがますます重要であり、防災・減災対策の充実・強化により、更に安全・安心な北陸地域を形成し、企業の移転先としての有力な選択肢になることが必要。
- 東日本大震災以降、代替補完機能の必要性が問われており、また国土強靱化の政策がすすめられていることから、能越自動車道や中部縦貫自動車道の早期全線整備と、東海北陸自動車道の4車線化を要望したい。
- 「国土のグランドデザイン2050」において、日本海側各港湾の役割の明確化と施策の集中による日本海側港湾の更なる競争力強化が必要であるとされていることから、次期「北陸圏広域地方計画」においても北陸港湾の競争力強化を明確にして頂きたい。
- 並行在来線は、その収支は厳しいものになると考えられ、国からの支援やJRからの協力・支援実現など新たな仕組みの構築による地元負担の軽減が必要だと考える。
- 東京のテレビの天気予報では、必ずしも北陸3県の天気が表示されないことから、北陸新幹線金沢開業を機に、観光客の利便性向上を図るうえで、例えば金沢の天気が表示されるよう、配慮をお願いしたい。



齊藤常任理事



金尾理事



麦野常任理事



針山理事



吉田常任理事



佐伯理事



高木副会長

第21回 中部・近畿経済産業局との懇談会



平成27年3月10日(火)、ホテル日航金沢で第21回 中部・近畿経済産業局との懇談会を開催した。中部経済産業局からは井内局長、関北陸支局長ら11名、近畿経済産業局からは岡村地域経済部次長、北経連からは永原会長、深山副会長ら31名が出席、またオブザーバーとして富山県、石川県、福井県の商工労働部、産業労働部からも参加した。

永原会長は冒頭の挨拶で、「安全が確認された原子力発電所の速やかな再稼働が必要」と述べた他、ライフサイエンス分野と高機能新素材関連産業の一大集積地を目指す北陸産業競争力強化戦略について、また、北陸新幹線の金沢開業の期待、敦賀延伸の工期3年前倒し決定等について述べた。

井内局長、関支局長、岡村次長のあいさつに引き続いて、水口常任理事から「北陸ライフサイエンスクラスター事業への支援、マッチング事業やコンバートEVなど産業振興」について、菱沼常任理事から「企業の国際化に向けた勉強会・セミナーの開催や北陸企業の関心が高いASEAN諸国に対する調査・研究など国際経済交流の推進」についての活動報告があり、また、井内局長からは「世界・アジアにおける北陸地域の可能性」と題した報告を受け、その後、自由懇談を行った。



永原会長



井内局長



水口常任理事



菱沼常任理事



米沢常任理事



古田理事



朝日常任理事



杉野理事



加藤常任理事

会場での主な発言概要

- 北陸は、首都圏の本社機能の一部を北陸に戻した企業の実例もあることから、企業立地競争力は大都市圏よりも高く、更なる企業の「地方回帰」が必要。
- 大学との連携を深め、産学連携ネットワークの拡大や、大学の研究成果や知財、人材の活用による企業の発展、進化への支援に取り組んでおり、今後の支援強化を願う。
- 成長戦略の一つでもある「ロボット革命」実現に向け、1,000億円の投資を目指す新戦略が発表されている。今後は産学官を巻き込んだ推進母体である「ロボット革命イニシアティブ協議会」を設置し、産業競争力会議や総合科学技術・イノベーション会議等におけるAIやIoTの議論とも連携していくこととしている。
- 官民で取りまとめた、ライフサイエンス分野や高機能新素材関連産業の一大集積地を目指す「北陸産業競争力強化戦略」を受け、日本のものづくりを支えてきた北陸地域の更なる産業競争力強化を目指すとともに、地域に密着して活躍する中核企業やその候補・取引先を中心とした新事業展開のプロジェクトの推進も図りながら、地域産業の活性化を図る。
- 北陸企業に関心の高いASEAN諸国は産業の発展段階や政策も国により様々であり、それぞれの国との互惠関係に基づく経済交流を進めることが必要。さらに、ものづくりのみならず、食品・飲食やサービス業などでの展開も期待されている。
- 昨年末に日本海側の海底地中から採取された「夢の国産エネルギー源」として大きな期待が寄せられているメタンハイドレートは、今後も資源量調査を続け、調査結果を踏まえて資源回収技術の調査・開発等に取り組んでいく。
- 地方がそれぞれの特徴を活かした自律的で継続的な社会を創生できるよう「まち・ひと・しごと創生本部」が設置された。わかりやすい経済産業省関連施策をお願いしたい。
- 商工会の悲願であった「小規模企業振興基本法」が制定されたことに感謝。人口減少が著しい商工会地域にもアベノミクス効果が行きわたるよう、小規模企業への支援を引き続き強力に願う。



作本氏



齋藤常任理事



石澤常任理事



深山副会長

第2回 広域観光推進委員会の開催



平成26年11月25日(火)、平成26年度 第2回 広域観光推進委員会が開催され、小田委員長をはじめ10名の委員が出席した。

委員会では、今年度の事業計画の実施状況・評価および次年度の事業計画の方向性について審議した。

各委員からは、「2020年の東京オリンピックを見据え、中長期的な北陸地域の誘客戦略が必要」、「来年、善光寺が御開帳であり、1,000万人とも言われる参拝客を長野から取り込む戦略が必要」など北陸新幹線金沢開業を前提とした意見が相次いだ。

平成26年度事業の評価と平成27年度事業計画の方向性については原案どおり承認された。

委員会終了後、江ノ島電鉄株式会社 深谷相談役を迎えて「湘南地域と北陸地域の連携事業－挑戦と創造 新たな観光スタイルで持続的な成長と飛躍を目指す－」と題した講演があった。

また、講師との懇親・交流会では、各委員と講師が和やかに交流し、懇親を深めるとともに両地域の振興について意見交換した。

なお、本年度 第1回の広域連携プロジェクトチーム会議が、委員会に先立って開催され、6人の委員が出席した。会議では、主として首都圏北陸PRプロジェクトについて審議した。特に、来年2月実施の江ノ電との連携事業については、「伝統工芸をPRするのは良いこと。北陸の素材は、太平洋側にも東北にも九州にもない北陸独自の文化が反映されたものが多い。見せ方を工夫して欲しい」などの意見があった。

第1回 社会基盤整備委員会の開催



平成26年12月3日(水)、平成26年度 第1回 社会基盤整備委員会を開催し、山崎委員長をはじめ12名の委員が出席した。

委員長の挨拶の後、今年度の事業計画の実施状況・評価および次年度の事業計画の方向性について審議し、原案どおり承認された。また、北陸の港湾整備への要望、新幹線開業後の並行在来線の課題等に対し活発に意見交換を行った。

審議終了後、川崎重工業株式会社 車両カンパニー営業本部 西部営業部 担当課長の嘉納 修様に「北陸新幹線用E7系/W7系の概要」と題して、新幹線の変遷、北陸新幹線の概要、北陸新幹線車両の輸送等についてご講演をいただいた。



山崎委員長



川崎重工業(株) 嘉納課長

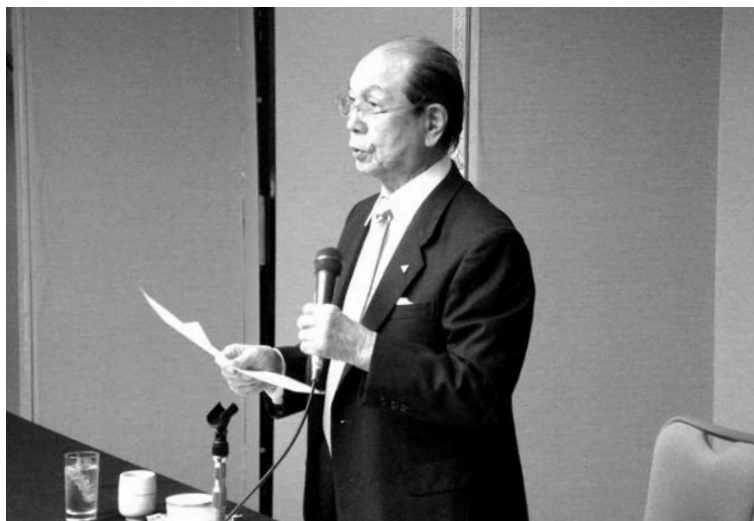
第3回 総合対策委員会の開催



平成26年12月11日(木)、金沢都ホテルで、平成26年度 第3回 総合対策委員会を開催し、北村総合対策委員長をはじめ11名の委員が出席した。

北村委員長の挨拶の後、「平成26年度事業計画の実施状況・評価および平成27年度事業活動方針(案)」について審議を行った。委員会では、「新幹線開業をいかに活かすか。インパクトはマイナスのものもあるがこれを全てプラスにしていくことが大事」「県単位で来てもらうわけではなく、北陸全体で、より広域的なセールスプロモーションが必要」「地元の大学からもっと積極的に採用できるようなことも大事。また、地域経済や地域振興を研究している先生方との連携、共同研究等を北経連として支援できないか」「大学生が地元で働く機会を作る、関心をもたせるということに関して、産業観光ということも大事」などの意見があった。その後、原案通り承認された。

他、「次期アクションプラン策定に向けての基礎調査」として、(株)日本経済研究所より今年度の委託調査の取り組み状況が報告された。



北村委員長

総合対策委員会女性部会

◆第5回 12月16日(火)

平成26年度 第5回 総合対策委員会 女性部会を金沢市内にて開催した。

浅野邦子部会長 ((株)箔一代表取締役会長)、森田弘美副部会長 ((株)グループフィリア代表取締役社長)をはじめ、新たに入会された尾崎知恵子 (株)山岸製作所代表取締役会長、水上誠子 (株)ダートコーヒー代表取締役会長も含め、計10名が出席した。



会合では、事務局より前回の第4回部会における意見交換内容を紹介した後、各部会員が女性の活躍推進に向けて何が必要か、それぞれが意見を出し合い、議論を更に深め、来年も更に女性部会の結束を固めることを誓い合った。



◆第6回 3月12日(木)

平成26年度 第6回 総合対策委員会 女性部会を富山市内にて開催した。富山市内での開催は初めて。

浅野邦子部会長 ((株)箔一代表取締役会長)、森田弘美副部会長 ((株)グループフィリア代表取締役社長)をはじめ、新たに入会された (株)エクスペッションズ 上田成子代表取締役も含め、計10名が出席した。



浅野部会長 挨拶

今回は、女性社員が更に活躍できるよう職場環境づくりに向けた取組みを本格化するため、北陸電力(株)が社内に組織した女性ワーキンググループ (WG) の要請を受け、当会女性部会との女性同士による意見交換を行った。

会合では、浅野部会長の進行の下、子育てと仕事の両立、キャリア育成といったテーマに基づき、参加した女性WGメンバーが日ごろ感じている疑問や悩みを聞いたり、当会女性部会員からの意見、アドバイスがあったりと予定時間を超過するほど、活発なやり取りがなされた。



北陸電力(株) 女性ワーキンググループ

北陸産学連携交流会

◆第1回



平成26年11月26日(水)、金沢都ホテルにて第1回 北陸産学連携交流会を開催した。本年7月開催の第1回 北陸産学連携懇談会で実施を合意した、大学の産学連携部門長と当会会員企業間での交流会で、約50名が出席した。

まず、金沢大学 西山宣昭教授から「産業界のニーズに対応した人材育成に向けた取り組み」として、昨今の文科省等の取り組みや、金沢大学や他大学での実際の取り組み内容等についてご講演をいただいた。

その後、「人材育成」をテーマにパネルディスカッション形式で、大学側、企業側双方の産学連携、人材育成の責任者の方々にご登壇いただき、人材育成、インターンシップ、留学生の活用等について取り組み内容等をご紹介いただくとともに、問題点や課題などについて、会場からの発言も交えて意見交換を行った。その後開催した懇親交流会では、各大学関係者と会員企業が和やかに交流し、懇親を深めた。



西山宣昭教授

講師・パネルディスカッション参加者のご紹介

【講師・コーディネーター】

西山 宣昭 氏 (国)金沢大学 大学教育開発・支援センター 教授

【パネリスト】

高辻 則夫 氏 (国)富山大学教授 産学連携部門長

福田 崇之 氏 (学)金沢工業大学 産学連携推進部 連携推進室長
(文部科学省COC事業事務担当及びアントレプレナーズラボ運営事務担当)

吉長 重樹 氏 (国)福井大学 産学官連携本部 副本部長・准教授

宮野 兼美 氏 立山マシン(株) 代表取締役社長

勝木 知文 氏 セーレン(株) 執行役員 人事部長兼 労務部長
セーレンコスモ(株) 代表取締役社長

中村 和哉 氏 (株)北國銀行 取締役 総合企画部長兼 人材開発室長

◆第2回



平成27年3月5日(木)、金沢都ホテルにて第2回 北陸産学連携交流会を開催し、50名が参加した。

まず、金沢大学 向理事・副学長、金沢工業大学 谷常任理事・産学連携推進部長より「大学の置かれた環境について」と題して、それぞれの大学の事例を挙げて説明いただいた。

その後、「人文社会系教育の今後について」「助成金・交付金の在り方」「インターンシップ・留学生の支援について」をテーマに、大学、企業の双方から取り組み内容等をご紹介いただくとともに、問題点や課題などについて意見交換を行い、最後に、福井大学 岩井副学長に意見をとりまとめていただいた。その後開催した懇親交流会では、各大学関係者と会員企業が和やかに交流し、懇親を深めた。



金沢大学 向副学長



金沢工業大学 谷常任理事



福井大学 岩井副学長

第327回 常任理事会



平成26年12月17日(水)、第327回 常任理事会を金沢ニューグランドホテルにて開催、永原会長をはじめ17名が出席した。

「平成26年度事業計画の実施状況・評価および平成27年度事業活動方針（案）」について審議を行い、承認された。

審議では、来年度の事業活動に関して、北陸新幹線、並行在来線、広域観光、大学との連携強化、地方創生等、幅広い分野で活発な意見交換がなされた。

また、「マイナンバー制度」の概要について事務局より説明を行った。



北陸フォーラムの開催



平成27年2月2日(月)、東京のホテルニューオータニにて、第4回「北陸フォーラム」を開催した。

3月14日の北陸新幹線金沢開業を間近に控え、首都圏の企業経営層や観光関係者等をご招待し、北陸の地理的利便性や北陸への企業立地、北陸の優れた観光資源を広く紹介し、北陸地域のプレゼンス向上と産業振興・広域観光推進に寄与することを目的に開催した。

講演会では、双日総合研究所副所長の吉崎達彦氏が「2015年の経済情勢を読む」と題して講演されたほか、北陸地域の企業誘致PRビデオを放映した。

懇親会では、北陸AKB（甘えび・カニ・ブリ）や、北陸の郷土料理、地酒のほか、道場六三郎氏のオリジナル料理も提供された。王理恵氏（富山県入善町食育大使）からの北陸応援トークや、北陸新幹線グラントラスアテンダントによる北陸新幹線PRも行われた。来場された皆さんは北陸の「食」を堪能され、会場内は終始賑わった。



吉崎達彦講師

PR展示コーナーでは、北陸の企業立地環境や観光のPR、各県の特産品の販売などが行われたほか、北陸新幹線実物大パネルや車両模型などの北陸新幹線PR展示に人気が集まった。

参加人数は、講演会 1,000名、懇親会 1,300名であった。



お迎えの様子
 (右から、永原会長、川田副会長、高木副会長、小田広域観光推進委員長、久和常任理事)



来場者を迎える温泉旅館の女将さん



北陸新幹線に採用された北陸の技術



W7系(正面)実物大パネル



永原会長 挨拶



道場六三郎氏と王理恵氏の北陸応援トーク



道場六三郎氏オリジナル、鴨と里芋治部煮スタイル



温泉女将さんの北陸PR模様



グランクラスアテンダントのお見送り



地酒コーナー

北陸3県自治体PRコーナー



北陸3県物産コーナー

第3回 関西・北陸交流会

関西・北陸交流会

2015.2.7



平成27年2月7日(土)、第3回 関西・北陸交流会が富山第一ホテルで開催され、真鍋JR西日本社長、徳永北陸信越運輸局長、土屋近畿運輸局長、石井富山県知事、沖原関西経済連合会副会長ほか、両地域の自治体、経済団体、観光団体などの関係者120人が参加した。この会は、関西と北陸の継続的な連携と交流の活性化を図るべく開催されているもので、今回は開業直前のこの時期に、新幹線試乗会とあわせて開催された。

当会からは永原会長が参加し、冒頭の挨拶で、「関西との交流の重要性」と、「関西と連携して大阪までのフル規格整備を進めていくことが必要」と発言した。



第3回 あいの風とやま鉄道利用促進協議会

平成27年2月6日(金)、富山市の富山第一ホテルで、「第5回 あいの風とやま鉄道利用促進協議会」が開催された。

石井富山県知事をはじめ、各自治体首長、高木富山県商工会議所連合会会長（北経連副会長）、水野北経連常務理事など、約40名が出席した。

会社側は、県立美術館の観覧料割引など特典付き「開業記念1日フリーきっぷ」を発売するほか、沿線のイベントと連動したお得な企画きっぷも販売し、利用促進と地域活性化につなげるとの説明があった。

その後の意見交換では、「マイレール意識・マイホーム駅舎意識の醸成が必要。一致団結して盛り上げることが大事。」「料金が低いから利用者が少なくなるということがないように、料金を安くしてほしい。」などの意見があった。

福井県並行在来線対策協議会



平成27年3月18日(水)、福井市の福井県織協ビルで、「福井県並行在来線対策協議会」が開催された。

西川福井県知事をはじめ、各自治体首長、角崎北経連理事事務局長など、約20名が出席した。

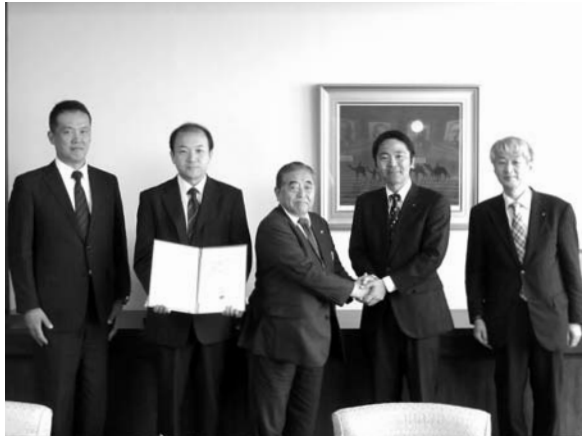
西川知事は挨拶の中で、「北陸新幹線は3年前倒しとなり、並行在来線の開業にむけたスケジュールも3年前倒しとなる。富山・石川の事例を参考にしながら、福井の事情を考慮し、県民の利便性を第一として、検討していくことになる。」と述べた。

事務局から開業までのスケジュールの見直し、平成27年度の事業計画等について説明があり、承認された。

湘南地域と連携した 観光プロモーション

■湘南・北陸連携カンファレンスの開催

- 本年度の湘南・北陸連携カンファレンスは、鎌倉市長、藤沢市長、江ノ電天野社長等に今後の事業のフレームワーク、本年度事業をご説明する形で各々協議し、最後に提案書をお渡しし、受理された。また、平成26年11月には全体会議を行った。



鎌倉市長室にて



カンファレンス全体会議にて

■「北陸伝統工芸セレクションウィーク in 湘南」

(1) 企画電車 -貸切電車内での北陸PR-

- 平成27年2月21日(土)から湘南・北陸地域の連携によるイベント「北陸伝統工芸セレクションウィーク in 湘南」を開催した。21日は神奈川県江ノ島電鉄を貸切り、北陸トレイン「北陸うまいもの号」-北陸お弁当列車-を開催し、北陸の食材を食べることで北陸の魅力をもPRした。貸切り電車は、鎌倉-藤沢駅間の約10kmを約1時間10分かけて往復。

江ノ電鎌倉駅での出発式では、天野江ノ島電鉄社長、松尾鎌倉市長、鈴木藤沢市長、小田北経連広域観光推進委員長、高橋高岡市長、本川氷見市長らが祝辞を述べた。電車には応募で当選した方を含め総勢60名が乗車。氷見市の食材を中心としたお弁当に舌鼓を打った。



出発式



車内の様子

(2) 江ノ電鎌倉駅でのPR (21,22日両日)

- 鎌倉駅構内に臨時北陸物産ブースを出展し、販売を行った他、試飲・試食、パンフレット配布などによるプロモーションを行った。

(3) 北陸伝統工芸体験コーナー

- 22日は江ノ電鎌倉駅のホーム内に停車した電車の中で北陸の伝統工芸体験教室を開催し、約70名が高岡の彫金、金沢の水引、金箔貼り、福井の越前竹人形づくりを楽しんだ。

○プログラム

	講 師	伝統工芸素材
①	富山県高岡市 伝統工芸士 中山 裕 晃 氏	彫 金
②	福井県坂井市丸岡町 越前竹人形の里 理事長 師 田 龍一郎 氏	越前竹人形
③	石川県金沢市 株式会社 箔一 森 麻衣子 氏	金 箔
④	事務局スタッフ	加 賀 水 引

○周 知 江ノ島電鉄 HP で周知

○体 験 者 数 約70名



(4) 小田急百貨店藤沢店北陸食品フェア（H27年2月18日(水)～24日(火)）

- 小田急百貨店藤沢店では、18日～24日の1週間、北陸食品フェアを開催し、富山県の月世界本舗、福井県の森八大名閣、石川県の諸江屋などが出展するとともに、石川県七尾市の「松乃鮎」が実演販売を行い、フェアを盛り上げた。



■湘南地域の北陸地域での観光プロモーション

(1) 湘南地域の北陸での観光プロモーション（H26年7月4日(金)～5日(土)）

- 湘南地域のメンバーである藤沢市観光協会の福島専務理事やミス鎌倉の石井奏美さん、湘南江の島海の女王の亀井友紀恵さん等10名が北陸3県を訪問。3県観光連盟、当会等を表敬訪問するとともに、MROの旅フェスタで湘南地域を観光PR。



富山県観光連盟



石川県観光連盟



MRO旅フェスタでPR



箔一 浅野会長 表敬訪問

(2) 鎌倉市観光協会の金沢市視察・研修（H27年3月17日(火)～18日(水)）

- 湘南地域のメンバーである鎌倉市観光協会の井手会長、ミス鎌倉の石井奏美さん等8名が金沢市を視察研修、石川県、石川県観光連盟を表敬訪問。金沢の街並み、21世紀美術館や鈴木大拙館等を視察した。



石川県庁



金沢21世紀美術館



金沢21世紀美術館での説明

イノベーション推進事業部だより

高信頼システム情報交換会・北陸

2月13日(金)、金沢市の金沢都ホテル5階「加賀の間」にて、北陸先端科学技術大学院大学との共催で平成26年度 第4回 高信頼システム情報交換会・北陸を開催し、「医工連携にかかわる3Dプリンターの活用と展望」と題して講演会を実施した。コンピュータ上で作った3Dデータを設計図として、断面形状を積層していくことで立体物を作成する3次元(3D)プリンターは、製造業を中心に建築・医療・教育・先端研究など幅広い分野でその活用が注目されており、今回は医療部門での最新動向について以下の講師が講演を実施し約60名が聴講した。また、講演会の終了後、講師と希望する企業の個別面談会を実施した。

- 山形大学 機械システム工学科ライフ3Dプリンタ創成センター 准教授 川上 勝 氏
(元北陸先端科学技術大学院大学准教授)
「3Dプリンタの現状と今後の科学・医療への貢献」
- 富山大学 大学院理工学研究部(工学) 教授 中村 真人 氏
「医療に应用する3Dプリンターの研究開発について」



山形大学 機械システム工学科
ライフ3Dプリンタ創成センター 川上准教授



富山大学 大学院
理工学研究部(工学) 中村教授



次世代ロボット研究会・北陸

3月19日(木)、金沢都ホテルにて、(一財)北陸産業活性化センターとの共催で平成26年度 第4回 次世代ロボット研究会・北陸を開催し、研究会メンバーの会議(第1部)と一般の企業等を交えた講演会(第2部)を実施した。

第1部では、研究会メンバー16名が出席し、中部経済産業局 地域経済部次世代産業課 瀬賀課長を招いて「ロボット新戦略のポイントと予算」に関する説明を受け、ロボット関係の助成制度や活動状況について情報交換を行った。

第2部では、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 生産システム部長の小林 研氏と中日本高速道路(株) 金沢支社 保全・サービス事業部長の河合朝仁氏を講師に招き「農業ロボットの研究開発の動向」および「高速道路における維持管理の現状と課題」についてそれぞれ講演いただき、約60名が聴講した。

講演会終了後は、交流会を開催し、各大学、企業の取り組みについてプレゼンテーションを行い、活発な情報交換・意見交換を行った。



コンバートEV事業化研究会

1月8日(木)・3月18日(水)、金沢都ホテルにて、北陸産業活性化センターとの共催でそれぞれ平成26年度 第1回・第2回の研究会を開催した。

第1回は、産学官の7団体の方々が参加し、福井県産業労働部の保坂武文プロジェクトマネージャーを

講師に迎え、「工業技術を活用した福井次世代農業プロジェクトの紹介」と題して講演いただくとともに、各メンバーの取り組みの報告や意見交換を行った。

第2回では、企業・自治体の6名の方々が出席し、研究会活動の総括報告が行われ、次年度の活動について意見交換を実施した。



主要経済指標

項目	鉱工業生産指数 (季節調整値)				大型小売店販売額				乗用車新車登録・届出台数			
	平成22年=100、%				億円、%		百万円、%		台、%		台、%	
地域	全国		北陸		全国		北陸		全国		北陸	
	指数	前期比	指数	前期比	金額	前年比	金額	前年比	台数	前年比	台数	前年比
平成26年	98.9	98.0	p115.7	p104.8	201,973	100.9	p365,918		4,693,197	103.0	139,307	101.8
26年1月	103.9	103.9	113.0	98.9	17,117	100.0	33,313	100.7	433,316	130.7	10,340	127.9
2月	101.5	97.7	112.1	99.2	14,690	101.3	27,539	102.2	489,838	118.8	15,106	117.4
3月	102.2	100.7	112.6	100.4	19,562	116.1	33,400	112.3	665,167	116.8	25,591	115.4
4月	99.3	97.2	111.5	99.0	14,677	93.7	27,632	97.0	292,716	94.9	8,776	95.6
5月	100.0	100.7	110.7	99.3	15,924	98.8	28,465	98.6	303,992	98.7	8,625	98.0
6月	96.6	96.6	113.4	102.4	16,317	98.2	29,427	98.0	378,755	100.1	10,965	100.5
7月	97.0	100.4	114.4	100.9	17,174	99.4	30,192	99.6	390,763	97.4	11,381	97.3
8月	95.2	98.1	114.0	99.7	16,263	101.6	30,603	101.8	280,966	90.5	7,510	85.6
9月	98.0	102.9	119.2	104.6	15,313	100.5	27,797	102.5	431,192	96.8	12,253	93.8
10月	98.4	100.4	122.4	102.7	16,065	100.0	28,920	101.3	327,730	92.6	9,439	91.3
11月	97.9	99.5	119.7	97.2	17,286	101.1	31,417	102.2	339,152	89.7	9,778	88.2
12月	98.7	100.8	125.0	104.4	21,558	100.1	37,214	99.7	359,610	100.3	9,543	97.1
27年1月	102.4	103.7	—	—	17,215	100.0	33,805	100.3	343,615	79.3	8,476	82.0
資料	経済産業省		中部・近畿経済産業局		経済産業省		中部経済産業局		北陸財務局			

pは速報値

項目	新設住宅着工戸数				有効求人倍率		消費者物価指数 (総合)				
	千戸、%		戸、%		倍率(季調値)		平成22年=100、%				
地域	全国		北陸		全国	北陸	全国		金沢市		
	戸数	前年比	戸数	前年比	倍率	倍率	指数	前年比	指数	前年比	
平成25年	987	110.6	17,885	114.1	0.98	—	平成26年 102.8	平成26年 102.7	平成26年 101.4	平成26年 102.8	
26年1月	78	112.3	955	89.0	1.04	1.35	100.7	101.4	99.1	101.4	
2月	70	101.0	939	83.1	1.05	1.35	100.7	101.5	98.9	101.2	
3月	69	97.1	1,167	84.4	1.07	1.38	101.0	101.6	99.2	101.2	
4月	75	96.7	1,288	83.2	1.08	1.40	103.1	103.4	101.5	103.0	
5月	68	85.0	1,218	83.9	1.09	1.40	103.5	103.7	102.1	103.7	
6月	76	90.5	1,438	83.7	1.10	1.39	103.4	103.6	102.1	103.5	
7月	73	85.9	1,666	119.3	1.10	1.37	103.4	103.4	102.0	103.7	
8月	74	87.5	1,226	76.4	1.10	1.37	103.6	103.3	102.4	103.6	
9月	76	85.7	1,385	82.9	1.09	1.36	103.9	103.2	102.5	103.6	
10月	79	87.7	1,527	73.4	1.10	1.38	103.6	102.9	102.4	103.2	
11月	78	85.7	1,395	77.1	1.12	1.40	103.2	102.4	102.2	103.1	
12月	76	85.3	1,263	81.7	1.15	1.47	103.3	102.4	102.0	102.7	
27年1月	68	87.0	881	92.3	—	—	103.1	102.4	p101.8	p102.7	
資料	国土交通省				厚生労働省		北陸財務局		総務省		石川県統計課

pは速報値

項目	企 業 倒 産							
	件 数				負 債 総 額			
単 位	件、%				億円、%		百万円、%	
地 域	全 国		北 陸		全 国		北 陸	
	件 数	前年比	件 数	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比
平成25年	9,731	89.7	250	83.9	18,741	67.4	45,585	88.6
26年 2月	782	85.4	17	77.3	1,162	67.6	4,417	168.4
3月	814	87.7	17	60.8	1,170	73.6	896	30.7
4月	914	101.6	36	200.0	1,411	20.6	9,359	201.7
5月	834	79.9	28	90.4	1,726	99.7	8,467	216.1
6月	865	96.5	20	62.5	1,920	50.1	2,579	34.8
7月	882	86.1	22	71.0	1,295	64.9	3,964	70.6
8月	727	88.8	18	100.0	1,358	81.7	1,363	87.0
9月	827	100.8	16	88.9	1,368	72.0	3,045	160.7
10月	800	83.4	20	87.0	1,241	79.9	2,793	185.5
11月	736	85.4	20	77.0	1,155	83.8	5,747	111.0
12月	686	91.5	11	55.0	1,783	132.6	484	22.5
27年 1月	721	83.5	18	72.0	1,681	53.4	946	38.3
2月	692	88.5	16	94.1	1,512	130.1	2,965	67.1
資 料	東京商工リサーチ							

訃 報

■ 角間俊夫氏〈カナカン(株)取締役特別顧問〉が、平成27年2月24日に逝去されました。

角間氏は、平成13年5月より北経連の理事、同平成13年より産業開発委員会、委員会再編に伴い平成18年よりは物流機能強化委員会、平成23年の再編では広域観光推進委員会でそれぞれ委員を務められました。

ここに、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

平成26年度

北経連スケジュール

北経連主要行事

開催日 (予定を含む)	主要行事	備考
4月2日	平成26年度 第1回 広域観光推進委員会	金沢市
4月4日	平成26年度 第1回 総合対策委員会	金沢市
4月8日	第2回 北陸地域連携プラットフォーム	金沢市
4月21日	第325回 常任理事会	金沢市
4月30日	第2回 IRいしかわ鉄道利用促進協議会	金沢市
5月12日	第5回 昇龍道プロジェクト推進協議会	富山市
5月16日	・第92回 理事会 ・平成26年度 定期総会 ・特別講演 ・懇親交流会	金沢市 (ホテル日航金沢)
5月23日	第1回 医工融合研究会	野々市市
5月24日	北陸新幹線レール締結式	富山市
	福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会	福井市
5月26日	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会	富山市
5月27日	北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会及び中央要請	東京都
5月28日	次世代ロボット研究会・北陸	富山市
5月29日	第3回 あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山市
	台湾三三会との交流会議	福井市
6月6日	第3回 北陸地域連携プラットフォーム	金沢市
6月12日	第1回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
6月25日	次世代ロボット研究会・北陸	七尾市
7月7日	第2回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
7月11日	平成26年度 第2回 総合対策委員会	金沢市
7月14日	第1回 北陸産学連携懇談会	金沢市
7月21日	北陸新幹線建設促進石川県民会議総会	金沢市
7月24日～25日	高信頼システム情報交換会	福井市・金沢市
8月5日	・第326回 常任理事会 ・第42回 三県知事との懇談会	福井市 (ユアーズホテルフクイ)
	政府に対する要望活動	東京都
8月26日	会員懇談会(石川会場)	金沢市 (金沢商工会議所会館)
9月2日	第3回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
9月2日	第2回 医工融合研究会	野々市市
9月11日～12日	第19回 三経連経済懇談会	仙台市
9月12日	高信頼システム情報交換会	金沢市
9月17日・18日	第15回 北陸(日本)・韓国経済会議	七尾市
9月25日	次世代ロボット研究会・北陸	金沢市
10月3日	第56回 西日本経済協議会総会	高松市
10月8日・19日 11月13日	湘南・北陸連携カンファレンス	鎌倉市・藤沢市

北経連スケジュール

開催日 (予定を含む)		主要行事	備考
平成26年	10月15日	全国宣伝販売促進会議	富山市
	10月16日	西日本経済協議会要望活動	東京都
	10月16日	アジア研究所・福井県立大学との共同シンポジウム	福井市
	10月11～15日	昇龍道マレーシアミッション	マレーシア
	10月16～17日	北陸技術交流テクノフェア	福井市
	10月20日	第41回 (一社)日本経済団体連合会との経済懇談会	金沢市 (ANAクラウンプラザホテル金沢)
	10月21日	韓国との共創セミナー in 金沢	金沢市
	10月24日	三経連経済懇談会要望活動	東京都
	10月30日	高信頼システム情報交換会	金沢市
	11月5日	平成26年度 第1回 先端技術推進委員会	金沢市
	11月11日	第4回 総合対策委員会 女性部会	金沢市
	11月13日	平成26年度 第1回 国際交流推進委員会	金沢市
	11月17日	北陸新幹線の整備促進についての合同中央要請	東京都
	11月25日	平成26年度 第2回 広域観光推進委員会	金沢市
	11月26日	第1回 北陸産学連携交流会	金沢市
	11月28日	第3回 医工融合研究会	野々市市
	12月3日	平成26年度 第1回 社会基盤整備委員会	金沢市
	12月10日	会員懇談会 (富山会場)	富山市 (富山第一ホテル)
12月11日	平成26年度 第3回 総合対策委員会	金沢市	
12月17日	第327回 常任理事会	金沢市	
平成27年	1月8日	コンバートEV研究会	金沢市
	1月27日	新春経済懇談会	金沢市 (金沢ニューグランドホテル)
	2月2日	第4回 北陸フォーラム	東京都
	2月13日	高信頼システム情報交換会・北陸	金沢市
	2月19日	会員懇談会 (福井会場)	福井市 (ホテルフジタ福井)
	2月21日～24日	湘南・北陸ウィーク	鎌倉市・藤沢市
	2月24日	第22回 北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会	富山市
	2月27日	「転換期における中国ビジネスのあり方」セミナー	富山市
	3月5日	第2回 北陸産学連携交流会	金沢市
	3月6日	平成26年度 第2回 国際交流推進委員会	金沢市
	3月10日	第21回 中部・近畿経済産業局との懇談会	金沢市
	3月12日	第6回 総合対策委員会 女性部会	富山市
3月18日	コンバートEV研究会	金沢市	
平成27年	3月24日	平成26年度 第2回 先端技術推進委員会	金沢市
	3月24日	講演会「人工知能・スーパーコンピューターはここまで来た！」	金沢市
	3月27日	平成26年度 第2回 社会基盤整備委員会	金沢市



株式会社 PCO

会社概要

会社名 株式会社 PCO
代表者名 代表取締役 羽根 由 (はね ゆう)
所在地 富山県富山市小杉120
TEL : 076-429-5708 FAX : 076-428-9156
設立 平成15年10月
資本金 10百万円
従業員数 15名
事業内容 企業ミーティング・大会・学会・見本市・展示会等
企画運営サポート業務、
イベント企画運営業務、通訳・翻訳業務、
地域ブランド構築・コンサルティング業務
HPアドレス <http://pcojapan.jp>



代表取締役
羽根 由

会社の沿革

- 1991年 広告企画・制作会社「株式会社生活ネット研究所」を設立
- 2003年 コンベンション運営に特化した、「株式会社 PCO」を設立

会社の紹介

当社は、地域に根ざしたPCO（プロフェッショナル・コンGRESS・オーガナイザー）として、MICEの企画運営を基幹事業に通訳・翻訳事業、地域づくりのブランディングやコンサルティング事業を展開しています。

Meeting（企業ミーティング等）、Incentive（研修旅行等）、Convention（学会・大会等）、Exhibition（展示会・イベント等）は、国内外を含めた交流を促す国の重要施策の一つ。北陸には、豊かな自然、伝承文化、最先端の技術を育む産業など、人々が集うに相応しい魅力が揃っています。インターネットやSNSなど、世界中どこにいても簡単につながることでできる現代ですが、Face to faceの交流があるからこそ信頼が生まれ、新しい発見や可能性が広がります。私たちはコミュニケーションビジネスを通して、地域の魅力を高め、未来に貢献する企業を目指しています。

今後の取り組み

北陸新幹線の開業にともなう交流人口の増大は、さまざまな産業に経済効果を波及させます。2015年、次々に大型コンベンションの舞台となる北陸。さらに2020年のオリンピックイヤーに向けて、海外から日本へ、そして地方へ注がれる視線はますます熱くなると予想されます。今後もニーズが広がる会議需要を見据え、グローバル・ビジネスへの対応も視野にいれながら、さらなるMICEを呼びこむ一端を担えるよう、活動していきます。

サービス紹介

- ◎会議・大会企画運営
基本計画・企画コーディネート、事務局代行、広報・制作、当日運営、事後処理など。
- ◎通訳・翻訳
商談エスコート、観光、会議、一般翻訳、ドラフト翻訳など。
- ◎地域ブランディング
地域産品の商品開発と産業創出、まちづくりイベント企画など。

株式会社山岸製作所

会社概要

会 社 名 株式会社 山岸製作所
代 表 者 名 代表取締役会長 尾崎知恵子 (おざき ちえこ)
 代表取締役社長 山岸 晋作 (やまぎし しんさく)
所 在 地 石川県金沢市小金町3番31号
 TEL : 076-252-5121 FAX : 076-253-9220
設 立 昭和38年2月
資 本 金 37百万円
従 業 員 数 20名
事 業 内 容 家具販売業・内装工事業
事 業 所 粟崎事務所
HPアドレス <http://www.yamagishi-p.co.jp>



代表取締役会長
尾崎 知恵子

会社紹介

(株)山岸製作所は昭和11年に春日町で小さな木工所として開業しました。

金沢で培った伝統と技術の継承そして岡村製作所石川県特約店として常にモダンデザインの実践に努力してまいりました。

山岸製作所が創りあげたいものは、お客様が豊かで、快適に過ごしていただくことのできる空間であり、そこに集う方々の優しい笑顔イメージしながら、すべての業務を行っていきます。

経営理念

「山岸製作所は社員とお客様に誇りと豊かさを提供するために常に前進する」を社是にしております。会社の繁栄は社員が輝くこと、そして社員の輝きは豊かな空間作りを通してお客様に満足いただくことで達成できると確信しております。

今後の取り組み

金沢に新しい息吹が芽生える3月14日(土)にヤマギシショールームはL'INTERNO (リンテルノ) by yamagishi.として生まれ変わりました。お客様が生活のイメージを想像しやすい暖かみのある空間をショールームに新設しました。これからは世代を超えて良い家具を長く使っていただくこと、そして豊かさを感じ、充実したライフスタイルを楽しんでいただけるよう皆様方のサポートをしてまいります。

製品紹介、サービス紹介

リンテルノではイタリアの高級家具ブランド、カッシーナ、アルフレックスを中心に住宅用家具の展示販売を行っております。また、オフィスプランニングの経験と、調査・分析による予測などから、ビジネス環境の変化に対応できるオフィス作りを支援しています。そして、インテリア設計においては温泉旅館、公共機関、個人住宅の内装工事の提案、施工を通して快適な空間作りをお手伝いしております。

株式会社 小林製作所

KOBAYASHI MANUFACTURE COMPANY LIMITED

会社概要

会社名 株式会社 小林製作所
代表者名 代表取締役 小林 靖典 (こばやし やすのり)
副社長 黒川 正枝 (くろかわ まさえ)
所在地 石川県白山市水島町429-17
TEL: 076-277-7330 FAX: 076-277-7331
設立 大正15年12月
資本金 10百万円
従業員数 99名
事業内容 精密板金製造業、ソフトウェア開発販売業務
事業所 本社事業所
HPアドレス <http://www.kobayashi-mfg.co.jp/>



副社長
黒川 正枝

会社紹介

大正8年創業。製造機械の外装部などの精密板金製品を製造しています。3代目社長の小林靖典は、就任前より工場の生産管理システムを独自に開発し、製造工程を画像で記録、「誰が」「いつ」「何を」「どのように」製造したかがわかる生産管理システム Sopak によって生産性を向上させ、社員の和気・活気・元気を引出し、高品質な多品種・少量・多変動生産を実現しています。

経営理念

会社方針

「会社の発展と社員の幸せを追求する日本一の会社」を目指す。

時間当たりの生産性向上をめざし、コンピュータの有効活用によって一人一人を活かし、一人一人をつなごう

主な製品紹介、サービス紹介

●精密板金製品：

先端の生産管理システムと創業95年の智慧と工夫で板金設計・合理化提案から製造・塗装・組立まで 屈指の製造品質の追究を行っています。

●カイゼンカメラシステム Sopak-C：

24時間現場を記録。静止画像による高速な検索性と再生を実現し、現場で起こった全てを再現できる『究極のトレーサビリティシステム』です。現在、食品製造用のフードディフェンスカメラとして Sopak-C のお引合をいただき、ご好評をいただいております。

当社技術力

- ★最先端の設備による高品質なものづくり
 - ★熟練した職人技
 - ★当社独自の生産管理システム
 - ・月に6万種類のアイテムに及ぶ超多品種
 - ・ほとんどが1個・2個の極少量
 - ・最短納期1日という短納期
- の受注品を、生産管理 Sopak と社員全員のチームワークで、納期達成率100%を具現しています。

会社の沿革

- 大正8年：織機・車両・工作機械用のボルト・ナット製造業として創業
- 昭和33年：JIS マーク表示工場指定
- 昭和56年：塗装部門を増設、板金から塗装・焼付の一貫ラインが完成
- 昭和57年：受注ソフト Sopak 開発
- 昭和63年：CAD/CAM ソフト CADWORLD 開発
- 平成3年：小林靖典 現社長就任（3代目）
- 平成17年：白山市水島に新社屋完成、材料自動搬送機など最新設備導入し事業拡大
- 平成14年：環境マネジメントシステム「KES」取得
- 平成4年：石川ブランド優秀新製品賞受賞（生産管理ソフト SOPAK）
- 平成14年：金沢市IT大賞受賞
- 平成22年：中部IT経営力大賞受賞
- 平成23年：石川ブランド金賞受賞（カメラ記録システム Sopak-C）
- 平成24年：IT 経営力大賞経済産業大臣賞受賞

今後の取り組み

これからも、小林製作所は、日本の製造業のお役にたてるように、日々革新的なモノづくりに挑戦し、高品質な製品を製造してまいります。

DNP 大日本印刷株式会社

会社概要

会 社 名 大日本印刷株式会社 情報ソリューション事業部
代 表 者 名 北陸営業所長 梶原 孝典（かじわら たかのり）
所 在 地 【北陸営業所】
 〒920-0856 石川県金沢市昭和16-1 ヴィサージュ 8階
 TEL：076-221-3275 FAX：076-221-3548
設 立 明治27年1月
資 本 金 1,144億6,400万円（大日本印刷全体）
従 業 員 数 39,524名（大日本印刷全体）
事 業 内 容 製造業（情報／生活産業／エレクトロニクス）
事 業 所 北陸営業所ほか
HPアドレス <http://www.dnp.co.jp/infosol/>



北陸営業所所長
梶原 孝典

会社紹介

当社は私が所属する「情報ソリューション事業部」、生活資材「包装事業部」、生活産業「住空間マテリアル」、半導体製品「エレクトロニクス」、「電子出版」の事業部制をとっております。またDNPグループは事業を通じて新しい価値を提供することにより社会の発展に貢献することが何より重要と考えております。生活者・得意先とまたあらゆる関係者との対話を深め、多様化するニーズや課題に気づき、印刷技術と情報技術を組み合わせたソリューションを提供しております。

経営理念

「未来のあたりまえを作る」企業や生活者の課題を解決する新しい製品やサービス、仕組みを開発し、日々の生活やビジネスに無くてはならない「あたりまえ」の実現化を図り夢と未来の創造に努めてまいります。

今後の取り組み

北陸3県の活性化を念頭に「観光」「伝統」「産学」「セキュリティ」に関わりあらゆる視点から情報提供に努めます。

製品紹介、サービス紹介

まずは弊社の総合力であらゆるジャンルに各事業部が関わっておりますのでソリューション活動の一環としてお声掛け下さい。

会社概要

会社名 ダートコーヒ株式会社
代表者名 代表取締役会長 水上 誠子 (みづかみ せいこ)
所在地 石川県金沢市松島1丁目35番地
TEL: 076-261-1234 FAX: 076-249-9922
設立 昭和20年9月
資本金 45百万円
従業員数 68名
事業内容 製造業、飲料食品卸、販売業務
事業所 本社、6支店、1工場
HPアドレス <http://www.dartcoffee.co.jp>



代表取締役会長
水上 誠子

会社紹介

ダートコーヒ株式会社は昨年創業70周年を迎えることができました。これまで一貫して美味しいコーヒー造りにこだわり、4種の焙煎機を駆使して石川から全国に発信しています。環境と、健康に配慮して、石川環境ISO認証を取得、有機JAS認定も取得しました。又、コーヒーのプロ集団を目指してJCQA認定1級4名、2級37名が有資格者となりました。

新しいコーヒーの価値を求めて、さらなるステージへ総力を結集し、皆様にご満足頂けるコーヒーとコーヒーが薫る数々のお菓子たちをご提供してまいります。

経営理念

私たち一人ひとりが自己研さんによる人間性向上に努め、「コーヒー」を通して、お客様や地域のすべての方々から信頼と満足と共感を得ることを目指す。

今後の取り組み

北陸新幹線の開業に合わせ、富山県、石川県の各店が新しい取り組みを考えていかれる中、親身に誠実にお客様のサポートをさせていただく能力が求められていると思います。その為に営業マンの知識、技術、人間力の向上を目指して更なる社員教育の徹底を図りたいと思っております。

製品紹介、サービス紹介

世界各地のストレートコーヒー、様々なブレンドコーヒー、お手軽なドリップオンコーヒーやインスタントコーヒー、オフィス用のポッドコーヒーは最高の品質です。

その他、紅茶や様々な飲料、冷凍食品等も取り扱っています。

又、珈琲菓子はモンドセレクション金賞を受賞しました珈琲カステラや珈琲羊羹、珈琲最中、珈琲バームクーヘン、珈琲クグロフ、コーヒーゼリー、ホワイトコーヒーアイスクリーム等々。

新商品は金沢美人珈琲（金箔入り）が観光のお土産用として好評発売中。



株式会社 東京立山製作所

会社概要

会社名 株式会社 東京立山製作所
代表者名 代表取締役 望月 昇 (もちづきのぼる)
所在地 〒145-0071 東京都大田区田園調布 4-44-3
 TEL: 03-3721-6572 FAX: 03-3721-6573
設立 昭和46年6月
資本金 10百万円
従業員数 20名
事業内容 電機部品加工 (プレス、旋盤、フライス等による精密金属加工)、
 金型製作、成形品、各種組立、ディスクパーザー加工・組立、
 車輻部品・オーディオ機器等加工・組立
事業所 富山事業所 富山県富山市古沢607-3
 工場 茨城県古河市女沼359



代表取締役
望月 昇

会社の沿革

昭和46年 現代表の大学時代からのものづくりへの思いや構想を実現するべく富山より上京、設立。
 平成元年 茨城県の古河市に工場増設。
 平成24年 富山市に事業所を開設。

会社の紹介

当社は主に金属製品 (車輻関連・自動車関連等各種電機部品) の加工・組立をして参りました。創業時に「何でも作れる会社」を目指し、日々研鑽した結果高い技術力として結実いたしました。現在では樹脂・難削材などの多種多様の細かいニーズにも応えられ、付属の部品まで一貫して承る体制を整えています。

また、社員ひとりひとりが能力を発揮でき充実した仕事を実現できる環境を整え、希望によっては社員の独立起業を支援する等、ものづくりと合わせひとつづくりも重視しております。

今後もこれら当社の総合力を駆使して、新たな研究・開発に邁進していく所存であります。

経営理念

「ものづくりに限界なし」という企業理念のもと、

- 洗練された技術力、向上心をもって様々なニーズに応える
 - 社員・家族に充実した生活を実現する
 - 地域、社会に貢献し、責任を果たす
- を社是に、日々精進して参ります。

今後の取り組み

当社の名前の由来は、もちろん富山県の立山に由来しています。創業社長の富山への強い思い入れから、この会社名となりました。東京で培ったものをぜひ富山でも実現したいという考えから、昨年富山事業所を開設するに至りました。今後この北陸の地にて地道に活動させていただければありがたく思います。

このことから、富山、北陸への強い思いを感じていただければ幸いです。

EXPRESSIONS 株式会社 エクスプレッションズ

会社概要

会社名 株式会社 エクスプレッションズ
代表者名 代表取締役 上田 成子 (うへだ しげこ)
所在地 石川県金沢市長土堀1丁目16番15号
TEL: 076-255-0713 FAX: 076-255-0724
設立 平成14年9月
資本金 10百万円
従業員数 10名
事業内容 翻訳・通訳業、海外ビジネスサポート
事業所 東京支店
HPアドレス <http://www.expressions.co.jp/>



代表取締役
上田 成子

会社紹介

【当社の沿革】

25年前、金沢に在住する外国人たちと一緒にスタジオで各言語のナレーションを収録してPR用の音声を作成し、それを使って売込みを始めたことが創業のきっかけです。

【現在に至るまで】

外国語ナレーションには翻訳が必要になりますので、その後、翻訳サービスを立ち上げ、現在、英語・中国語・韓国語・タイ語・ベトナム語・アラビア語・ドイツ語など、世界40カ国語に対応しております。

その中で販促・PRとして、外国人の視点に立ったパンフやWEBサイトを提供できるようになりました。

翻訳サービス立ち上げと同時期に通訳サービスも開始。北陸を中心に商談や会議の通訳業務をしています。国際会議では、通訳手配に加え、会場設営や通訳機材も提供しております。

最近では、お客様が海外へ行かれた際に、言葉の壁を解消してスムーズに活動していただくために、現地在住の通訳者兼コーディネータを手配しております。コストパフォーマンスも優れ、国際展示会、商談、調査、訪問等にご利用いただいております。

【当社の社風】

当社にはチャレンジを推奨する社風があり、スタッフ一同「まずはやってみよう！」の精神で、業務に取り組んでおります。

社員が成長し個性や強みを発揮することにより、サービスに深みが増すと考えています。

経営理念

外国語サービスの提供を通じて、社会の国際的な発展に貢献します。

今後の取り組み

海外ビジネス展開は、北陸の企業にとっても避けて通れない課題となってきています。当社は言語を通じて必要なサービスを提供し続けていきます。

1. 北陸地域における企業の国際的な発展をサポートする。
2. インバウンドの促進。外国人旅客の受入態勢整備。
3. アウトバウンド
 - (1) 海外への情報発信 (WEB)。
 - (2) 海外現地の通訳兼コーディネータの開発及び充実。

製品紹介、サービス紹介

- 翻訳 (分野: 法務、技術、経済、論文、ビジネス、伝統・観光等)
- 通訳 (同時通訳・逐次通訳: 国際会議/シンポジウム、商談、セミナー、観光)
- インバウンド/アウトバウンド推進における企画制作
- 海外発信WEBサイトの企画制作
- 海外現地通訳兼コーディネータ手配
- 外国語ナレーション

北陸物語 Facebook [出張版]



北陸物語

検索

北陸経済連合会と北陸イメージアップ推進会議は「北陸物語 Facebook」を通じて北陸の魅力の情報発信を行っております。是非ご覧ください。

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>

ここでは出張版として各県の過去の人気記事をご紹介します。

金沢は、昨日から断続的に降雪があったので、きっと兼六園も見ごろだろうと思ひ、早速行って、撮ってきました。兼六園では、北陸特有の水分を多く含んだ重たい雪が、15センチぐらい積もっており、雪化粧には適度な積雪となっております。12月のこの時期に、ちょっと早い雪だったこともあり、今日訪れた旅行者はとても幸運な方たちです。さらに幸運な方は、台湾からの団体のみなさん。園内のあちこちで、写真撮りまくりの姿が見られました。(12/6)



こよひどうろう 微影灯籠と霞が池

金沢城石川門 唐崎の松

石川より

祝 北陸新幹線金沢開業

本日、北陸新幹線は金沢まで開業いたしました。

開業に先立ち、金沢駅のコンコースで5時から出発式が行われました。真鍋JR西日本社長、太田国土交通大臣、馳衆議院議員、谷本石川県知事、山野金沢市長、石川鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事長が順に挨拶された後、サプライズゲストが紹介されました。

サプライズゲストは、4月からのNHK朝ドラ「まれ」のヒロインを演じる、女優の土屋太鳳さん。その後、会場をホームに移動し、辻金沢駅長と土屋太鳳さんの出発合図のもと、一番電車のかがやき500号が金沢駅を出発し、北陸新幹線はスタートしました。(3/14)



福井より

北陸では、富山の南砺市や富山市、石川の輪島市や白山市、そして福井県の嶺北と奥越地方などがそばの産地として有名でもあり、そば通に人気の店があるところとしても知られています。特に福井県では大根おろしをたっぷりかけて食べる「おろしそば」が主流で、全国的にもよく知られるようになりました。

福井県に行くといろいろな店で食べますが、個人的にちょっと気になっていることがあります。それは、出てくる時に汁がかかっているかどうか、さらに、大根おろしはそばの上のっているか汁で割った状態ででてくるかという事です。

写真下のように、そばの上に濃いめの汁をかけ、その上に大根おろし、かつお節、刻みネギをトッピングされた状態で出てくるのが一般的なおろしそばの気がします。でも、上の写真のように、そばには何も乗っかっておらず、そばちょこに入ったつけ汁で大根おろしを割ったものと、薬味が別になって出てくる店もあります。そばにそのまま汁をかけても、つけ汁のように一口ずつそばをつけながら食してもいいそうです。どうでもいいことかもしれませんが、きっとそれなりに理由はあるんでしょうね。



注文したおろしそばが、どんなタイプで出てくるか？

ちょっと楽しみにになりました。

※ちなみに私が聞いたり調べたりした中では、この違いの明快な回答が得られなかったので、もしご存知の方はぜひ教えてください。(12/29)

○関連情報 旬の里ふくい

http://info.pref.fukui.jp/hanbai/syunfile/syun24/tokusyu/tokusyu_04.html

富山より

今年もいろいろと富山県内の風景を見てきましたが、私が選ぶ、平成26年富山の絶景No.1を紹介します。

立山、室堂のホテル立山のスタッフが撮影した一枚です。標高2450mの室堂・雪の大谷の中を流れる天の川の写真です。

このタイミングまで、待つのは大変だったと思います。撮影した時期は、この時間帯になると道路も凍結していて、慣れていても、転倒に気を付けます。ホテル立山スタッフならではの一枚ですね。立山の星空は本当にきれいです。残念ながら、星空の写真を見せても、「天の川って見えるんですか。これ、合成ですか」と、よく聞かれます。本当に見えるんですよ。ホテル立山に泊まった人だけへの、宇宙からの贈り物ですね。皆さんへの、ちょっと早いクリスマスプレゼントになりませんか。天の川を、サンタさんが乗ったそりが、滑るように降りてくる。ロマンチックだなあ。

立山黒部アルペンルートは今年の営業は終了しました。来春、4月16日から再開します。その時は、ぜひ、ホテル立山に泊まってください。

お出かけ前に、ホテル立山HPのスタッフブログを見ると、いろいろ情報が得られると思います。(12/14)



新規会員ご紹介のお願い

「自然と都市機能とが共生する、
世界に開かれた産業・文化・交流の拠点
“北陸”」の実現を目指す“北経連”への
新規会員ご紹介をお願いいたします。

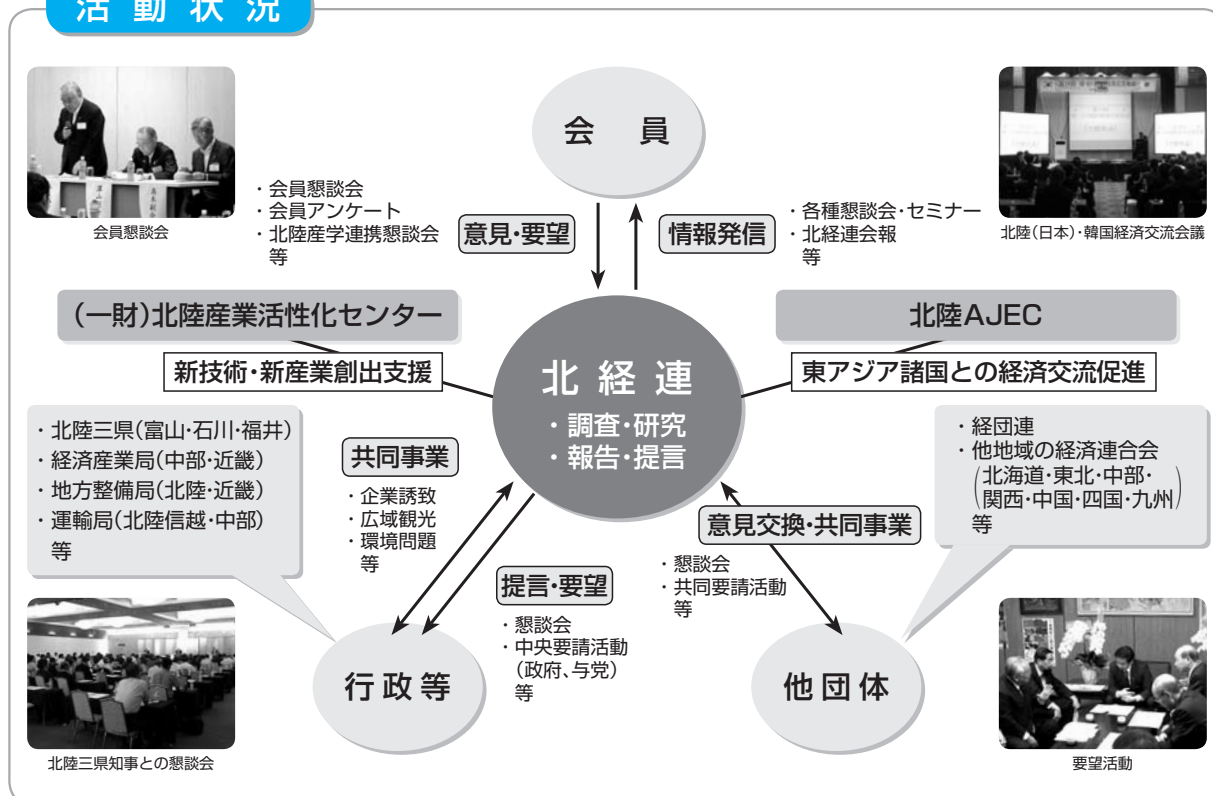
富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北陸経済連合会（略称：北経連）は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

活動状況



会員の皆様へ

北陸地域の明るい未来創造に向けた活動に一社でも多く参加していただけるよう、会員を増強し、連帯の輪を広めたく、各会員の皆様方はじめ関係各位におかれましては、関連企業や取引先企業などのうち、当連合会に未加入の企業の方々に広くお声を掛けていただき、入会ご意向のある企業を事務局まで是非ご紹介賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

入会ご希望の皆様へ

- 入会資格：本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人。
- 入会金：不要です。
- 年会費：1口 90,000円（1口以上）
- 入会お申し込み：下記、当会事務局までご連絡ください。

北陸経済連合会

〒920-0981
 金沢市片町2-2-15
 北国ビルディング4階
 TEL 076-232-0472
 FAX 076-262-8127
 HP <http://www.hokkeiren.gr.jp/>
 E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

東京事務所
 〒105-0001
 東京都港区虎ノ門2-8-1
 (北陸電力(株)東京支社内)
 TEL 03-3502-0471
 FAX 03-3502-0460



編集後記

4月から新年度が始まり、新入生、新入社員が街にあふれています。

当北経連事務局では、同じビルの2階と4階で分かれて仕事をしておりましたが、イノベーション推進事業部が4階にあがってまいりまして、パワー全開、新たな気持ちで事業に取り組むこととなりました。

会員の皆様もお近くへお越しの際には、事務局の方へも是非お立ち寄りくださいませ。

ご意見・ご感想を

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしています。また、送付宛先などの変更や新規加入希望の方の情報がございましたらお知らせください。連絡先はいずれも次のとおりです。

北陸経済連合会

〒920-0981
 金沢市片町2丁目2番15号
 北国ビルディング4階
 TEL: 076-232-0472
 FAX: 076-262-8127
 URL: <http://www.hokkeiren.gr.jp>
 E-mail: info@hokkeiren.gr.jp



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号 (北国ビルディング4階)

TEL (076) 232-0472(代) FAX (076) 262-8127

URL: <http://www.hokkeiren.gr.jp>

E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

